

94
1
49

準貴

宗家記錄

諸方御内用往復書狀扣

安政二年
三月

廿七

宗家江録

諸子河内
復出
和



第廿七冊

安政二年

三月

御用書

今三丁六のり

清内用弟某冊

御用書
今三丁六のり
清内用弟某冊

二〇四

二〇四

とて事か再交同く
ツ水に改むるとなれば
及つて直ぐと月五能
洋の

筒状の線と云ふは許し清濁と云
山籠通と決す人足般と云田中進立
以てよ於と云許し是を以て是評物能は
委深山達越と云及波化河と云旋
と云六と云と云と云産物と云掛大板と
は向越と云及許と云式と云合は向方及
は向下と云許し及向河支申と云

仕向の法定におかひせし海に許
沙危多しと揚公波母と通い奉り
有沙骨配の夜波津家におかひせし
正一形に能い奉りにおかひせし
波色強混の夜と目と海居の海大
仕向方よりと隆川奉信より
此等と産物とを我々合し仕向

川板屋中越極ちと許の長多田
中進の奉りとおかひせし仕向
以附の波花と深合の文既多奉り
信の産物と代換と大板と也
多下の洞とに拂入このおかひせし
右式子合と全大板と結と奉り
おかひの採り又意におかひせし

仕向の法定におかしく御返許
沙危多の法協合波母の通い事と
有沙常配の夜波津家のお能はるも
又一形も能い事にお家のお能大板
波乞強混の辰の目と海居の海元
仕向方より王隆門事信号の中
四首の産物をも我々合の仕向強

川板辰中紙極ちの許の長多油
中進の事と好い強をよお仕向中
以付の波花の深合の文既家文合
信の産物及も代價と大板の通
多下の洞とん拂入のわか紙
右式子合と全大板とるの結と案
お水の採り中又意にお見る和回

後後遊、大合、澤出、舟、行、其
難、涉、事、主、致、海、客、以、舟、在、其
滿、後、可、以、使、之、舟、元、以、危、也、
後、遊、中、也、立、舟、以、使、舟、之、
也、所、以、也、
公、勢、大、切、之、難、留、之、許、之、後、也、
以、成、之、後、之、力、也、

公、色、沙、動、向、以、其、舟、大、丈、之、也、也、
東、西、力、之、合、也、の、致、精、力、之、也、也、
以、着、母、節、大、板、之、中、也、也、也、
自、之、也、也、也、也、也、
公、勢、大、切、之、難、留、之、許、之、後、也、
也、也、也、也、也、也、也、也、也、
也、也、也、也、也、也、也、也、也、
也、也、也、也、也、也、也、也、也、

紫之通
お達書を以り方のみを仕る
この式を折角お守りなす
此後為御
口云ふ所は
口云ふ所は

員
十月廿方

依須伊藏
上川将監

氏江左藏友

氏江典膳友
平田主目友
番建重人友
半田為元友
杉村大茂友
少藏末人今有御書
右少藏去在方お達
御書と云ふ及

通子公望

育子方

杉村大虎



平田為元



番達直人



平田文吉



長江典昭



右門將監度
作須伊藏度

新編 家範 卷之二 家範

家範

新編 家範

新編 家範

新刊全書

御用書

古の事を知るは
世に大なるは
世に大なるは
世に大なるは
世に大なるは
世に大なるは
世に大なるは
世に大なるは

心術今世の
世に大なるは
世に大なるは
世に大なるは
世に大なるは
世に大なるは
世に大なるは
世に大なるは

世に大なるは

世に大なるは

いしん然に於大坂波多し事情と
押立右式あり仕向方越門板屋中紙
柳七巻しと云波廻録以外
奉大才押返及炭達紙の事
去月在方し仕向方状と云事
中進直通の事より状未通
仕向方中紙相の事并に金所

波化はしし人入能後忌事
中一と件少くしと廻浪日
少及凌も少苦配の中一茶
少波候よりし事
公勢し尖切能は換なり能
少長評と事好い然と大坂と
吏少し勅辨後かく中ナハ東西

若思之遠月以相為甚人所得
遠之深中一以所為如之會遠之
一之尚者之山仕之方始尚然之也
東中一之氣氣集善然之并以得之
也者亦未之未夕候之也者之
大切之安深中一之身也若評之也者
若事一之評者之平之也者之

事一通也之意也夜也
也者之也者之

寅
青月音

依須伊藏

古川也

文江古藏友
文江典照友

平田為元友
 蕃建車人友
 平田為元友
 杉村大為友
 沙状末令者曰
 右沙状去方打達証書之及
 以通其心之

西月

杉村大為



平田為元



蕃建車人



平田為元



氏江典膳



古門將監及
依須伊藏及

...

...

...

...

...

...

市月用言

市月用言

思後より門合人として常小
道に居る由言はる哉以味中曰言
之候及深更に力より能る事通用
より掛法門入候程に身早速
に捕らる事先今丈に預中付
直是より河邊に素も遊、風吹り之
事亦海に之念を尋問ひて別

状末に通申公の格を致し
共二付於沙也北に以て、後亦亦
細計に身不自序にあり
お附ら由許、方下に知て計り
程に予許、其を以味お南に
沙裁許、以、信付夜も以候
申述り、其を以味お附ら

貞
青音

依須伊藏

古川將監

氏江古藏友

氏江典膳友

平田宗内友

番建重人友

平田為元友

杉村大茂友

少状末合有田君

古少状去之白打達 改書之及

少通之及

青音

杉村大茂



Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

平田為元



Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

蕭建人



Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

平田之月



Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

友江典昭



Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

上川將監友

作須伊藏友

Vertical columns of faint, illegible text on the left page, possibly bleed-through from the reverse side.

A small, faint vertical mark or signature on the left page.

A vertical mark or signature on the right page, appearing to be written in green ink.

Vertical columns of faint, illegible text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

一

中丁未年

公同共法在列後為中一適為解
漢民教巡有之古有唐至強孔之在子
右者其在內風從其民好者者之其感
以後漢家亦其當有之乃其後之其其在
古正同用為用意我觀之其亦其法也其
因之其後為其法中其後其法其法其法
其在也其法其法其法其法其法其法

中ノ小宗ニ海峽ニ成事ニ只今ノ海峽
小宗帝ノ如ク如ク為リ賜ニ如ク如ク
夫ノ如ク如ク有リ人ノ如ク如ク
得ルニ如ク如ク如ク如ク如ク如ク
如ク如ク如ク如ク如ク如ク如ク
文ノ如ク如ク如ク如ク如ク如ク
如ク如ク如ク如ク如ク如ク如ク

如ク如ク如ク如ク如ク如ク如ク
如ク如ク如ク如ク如ク如ク如ク
如ク如ク如ク如ク如ク如ク如ク
如ク如ク如ク如ク如ク如ク如ク
如ク如ク如ク如ク如ク如ク如ク
如ク如ク如ク如ク如ク如ク如ク
如ク如ク如ク如ク如ク如ク如ク

如ク如ク如ク如ク如ク如ク如ク
如ク如ク如ク如ク如ク如ク如ク



法須淨藏極

古之術 乃及 乃及 乃及

三

三

乃及

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '乃及' and '三'.

印字

御用言

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '御用言' and '印字'.

とて知の状未と控見
達 沖中への傷取
よお辨遊のり入
お坊老の月十のり
岩市との味お為
裁評のり中

心内状と傳ふ二十人
其職ありと海酒のり
沈田播磨と伝は
魚のり中た為
鳥入のり中た為
そのり中た為
月日同方江中お附
裁評のり中

裁評

心内状と傳ふ二十人

裁評のり中

裁評のり中

中、姑米、及び辰、辰、巧、方、仕、業、に
お見、舟、船、河、乃、一、通、及、乃、向
い、系、又、状、未、通、中、者、以、之、於、山、由、地、志
此、之、後、黄、粉、江、斗、以、乃、是、乃、之、趣、者
向、至、前、江、中、お、附、之、至、許、台、乃、不、能
之、厚、斗、以、乃、能、之、許、及、重、以、之、遂
山、亦、味、お、尚、之、以、裁、許、以、乃、斗、以、之、夜

白、世、辰、乃、乃、斗、此、乃、乃、以、乃、乃、
之、地、乃、乃、之、

卯
二月廿五日

佐須伊藏

文江右藏友
文江典膳友
平田三右友

右川將監友
 番建車人友
 平田為元友
 杉村大茂友
 沙狀末と有國友
 右沙狀去十有お達改書字及
沙通字及心及

三月十日

杉村大茂
 平田為元
 番建車人
 平田為元
 氏江典辰

新刊

佐須伊織及乃以共

春英世人被

平田

村大

寺

右

記



十二

十一

卯丑月廿二

卯丑月

元一〇四

おのり

上
三
三

心
少
彼
世

卯
二
月

杉村大為

平田為元



蕭建忠 

平田玄白 

氏江典辰 

川將監友
依須伊藏友

心月狀勢之法小京御子兼兼沙法と
兼子中しそよ世言新訓居不い事友
お探方通辨没中にお合直は心典成
直法ハ云沙度は海若回人多う訓元は
お話の氣列元うを道は處黄河と境
拒合居はるあ胡と神お歩少黄河は
小法胡持居は海と云う云うと明ら分

四原為下中之部新設之正増設之

二月青

儀形在焉

長江典昭棟

平田玄内棟

杉村大茂棟

少壯未及月分也

少壯未及月分也。此等乃其志力之通及不也

九月十日

甲辰

毛氏茂

とら重知の令別
お達ひの許し候
三ツ形に爰迄満
し申す候しは為
まひりて若酢と申事
と海老のたまは
て候し申す候しは
月星おの右の申事
とら重知の令別

簡状令書と云行方
と云様事書奉り申事
申事候しは又と申事
決意申す候しは申事
申事候しは申事
先取書渡り候しは
候しは申事候しは

20

以反指其...
 後之曰奉...

為或與...
 以能...
 後今...
 或...
 方...
 施...
 三...

以...
 至...
 沙...
 幾...
 右...
 千...
 沙...

三葉山四辰為一等事述如氏之禮也
多持禮之

卯
三月廿九

作叔澤

氏江典照度
平田玄門度
仁門將監度

蕭建亞人友
平田為元友
杉村大茂友
右沙洲去大平方相達以書之
及山道善心堂

三月廿九

杉村大茂



估以汗藏皮

平田為元



蕭建生



平田為元



長江典昭



清内用卷

甲子丁卯移居

中内侍

公内狀之書之公去七日狀末之也

御政勢之儀法事格別者易之

御割度之公為復總之公益之回學

公事之古格之公為省質連之古風

公遊度

思石之御旨之 作出之御書付一通

松平藩御子也柳之公之被之書朱以然史

清書面之遊一也知
世の由状未被按ん
信出之由名公感感
仕男連達
清國公隨中清國許
之依由之公格之遊度
由遊極之由名中一也
一之條中由揚合身
何分由事儀之由由由
御之由事儀之由由由
官色之由事儀之由由
清考之由事儀之由由

胡亥妻河之宮作下夜
存

物之及去十一日沙深密之津用二分
筒井肥前守能之北出清曲活之内
之信少い志為節々 信出之志志何々
心何れ哉と云ふ法守以付法守之志何
一之志威社は同古格を以て為有い
中候志別而事々法守之志志を考社は
史注之義法守を以て遊ひる事け其儀を

水為有い

思ふ之津有誠以威ん社辰津守
中し以て又信少い事下一夜そまが皆
ん付不る而節々
公辨中し法向津邊極し内事
お女津藤元よりして公登し法津費
且子事く法古格等々為有い

思百之而既此其和泉殿伊賀殿法以没
出先にお成ひ長實具と津政勢節出見識
遠之志識之而右官自津退没七日有之
又 作出有之此跡追之也

作出之津有茂可之之法候方出鑑之
指別之志覺見候云々一して幾叶
津時勢以不都合之由及申向等々之由而

不直と云へ越出意切之志密活火候等々
幾有方右意出様抄中上之川及山且又
昨十日津用出反次志候申向丹後等様
時候は伺奉之上初出用人大炊實源等様
致面云云此今津奥向發發申向五編
右水事々水戸前中納言様御所内存込之
津候等追之火候之候申向也而御意

事者。其意。之。事。不。全。其。也。
不。謂。不。令。一。一。以。其。事。中。不。並。而。
婦。人。向。多。其。困。入。中。被。內。活。以。
右。之。意。其。右。身。以。海。之。尚。非。能。之。
此。意。存。其。事。以。觀。在。其。及。以。之。事。事。事。
右。身。以。好。其。故。而。法。家。換。一。回。以。格。節。之。
此。及。中。一。一。之。微。身。於。法。必。詳。其。

其。時。其。也。不。却。合。之。之。在。其。格。節。之。其。及。中。
不。以。為。在。一。一。之。難。以。其。場。合。其。故。必。考。以。
其。一。一。及。其。之。故。其。亦。勝。元。之。中。右。
其。作。出。之。亦。有。其。格。節。之。其。者。其。
其。及。以。其。實。在。之。士。風。其。其。以。其。際。之。以。
其。不。並。其。之。一。一。之。難。以。其。故。其。存。以。其。其。
於。

此方樣最先擬於法團許東西之區
此名其方及許之儀法之向節設中
一被踏を多り之精力は後重下か
指揮多し此事指考は
作出之節名苑有威儀仕共今法者略節
為及調中一の儀
公私法符合之古時法指考又法事

後重及調格節之由後條を以て及許之
由之法古之并士風質速に相成り候
及中は若くは通へ得由を以て及許之
以る古法由儀違ふに之者之儀は
中内種之許之儀志は之を法質許
格別之法不重と為古法由儀之度
希存此法由儀中述由新由儀

之增禮之

卯
八月十二日

作須伊織

長江典膳後

平田主内後

右川將監後

蕃建車人後

平田為之元後

杉村大茂後

之儀知

於之本文及 物出之 内名 詔後之 而之 口

好之 云之 范達 敬以 附大 於右 上 拜 内 云 洋 筋

及 物出之 右 及 之 上 之 及 及 内 達 之 後 之 上

法狀末之者略之

右法狀在十六日相達改書之及

山邊善長山

九月廿二日

杉村大茂



平田為元



蕃建連人



平田字内



及白典膳



作須伊織及

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a name, located in the upper middle section of the left page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a name, located in the lower middle section of the right page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a name, located in the middle section of the right page.

清内用卷

卯午

今更無之
後内状
掛の意は
一二

以内状の唐上の家元乾地履掛の
法用途金の子女も許し調金方
去三日の内状は委曲掛の意並に
此書法積案の出入同言も成る
止事又くも元今式子女の教
を子女の調達方尚後之れ地
及調達の内状を別紙の同列中

内状云云委海博之意以奉加不及
多等以控文之許之儀以今之極
此乃支之中以主向以安記中予中
青以若配之海液与志山之書以結
交元之安由所之實三而後遂之其以
此乃冠焉

上之極之復方一して此海中之名者

西房之安其少以場合丹誠及是非
彼言能之沙以津意其下以分全通速
此乃九汁以和厚及以名者有源
常好以出反為之申味也訓沙在也
名唯禮之

十月五日

休須江成

上川將監及

右方以狀志月廿六日古
法通若以之

六月五日

上川將監



法須伊織反

法須伊織反

卯年壬子月己酉日
御用書

お行、
千代傳、
之江、
去月、
心、
達、
心、
心、
心、
心、

心、
上、
身、
心、
大、
心、
心、
心、
心、

心、
心、

此後年々向後有又々名目而已
實備其一家之義有在也
以後之意度及及河面以所有之度若
此之等案之他家之及之及及海法
与之義實心之容易沙文面之及之
抑又其人書之義海之義之通也
此其門漢政入法之及之及之及之

有之得之後來之非常之及之及
所要之及之及之及之及之及之及
其為後流之及之及之及之及之及
其有者與也之士同之及之及之及
其出後之及之及之及之及之及之
有之及之及之及之及之及之及
其出後之及之及之及之及之及之

書面類の内西書科の書中
日本海測量の後月大切字の意味
お見流るは方拒り女はるの西書科加
西の歌におまはる事一文云はるるに
渡来右の西書科お流るるに
其要ておまはる測量故に西一大事
お反我年このこと西書科お流るる候柳

非書科の西書科お流るるに西書科
西書科の西書科お流るるに西書科
仕の西書科
西書科の西書科お流るるに西書科
西書科の西書科お流るるに西書科
西書科の西書科お流るるに西書科
西書科の西書科お流るるに西書科
西書科の西書科お流るるに西書科

上少首尾合にお拍夫切り是候中と後
尋しと中一被惣といひ此所必之
少隠密法捜申し少立之とて由能量
既松前加探し少候候少捜法にお女
清順分といふと振夫此少世に巻探
法中探り象 信事と申す少一候
少由りよお女言ふ少少世に切り少

被り来し少候候と申す少世に候候
何と申す少世に候候と申す少世に候候
少世に候候と申す少世に候候と申す少世に候候
少世に候候と申す少世に候候と申す少世に候候
少世に候候と申す少世に候候と申す少世に候候

一 右書由頼と申す候候と申す少世に候候
必用と申す候候と申す少世に候候と申す少世に候候
為字世節と申す候候と申す少世に候候と申す少世に候候

不日上京陸奥出立及平日人
附託於裁尚又吾酒日人
口お食裁以
三枚

右之紙

津少度お此度事
乃中一有財之
女書之
大板より
下実と陸奥

果より
大板より
及

全書附

八月十日

佐須伊

平田之内
氏江典昭

引川將監友
著述並人友
半田為元友
杉村大茂友

口演之覚

一昨十日達村伊勢と友宅にお越り後
お渡書面よりお渡村亦口達と申す事
おとと人達決定にお女と接向の事い
趣義よりお節毒向見せし事
い方同席一同の中通いお右の通決定
お女い事より神々瓶類中より反渡

龍計夫人在之不易易也
後刻來後雖計以方之
河面以知之政治礼と不
中一事号能之政通達
名号之龍中之海松
有之在抄少海以
有之在抄少海以

河面以知之度若此
有之及

河面以知之度若此
今日大和号度宅
虚飾之在抄少海
大和号度宅

伊勢守及に少信は信達は信の弟也
少通達有り信の事

右お海大和守及にお敬いそり河津は後
五月に系いふの事は及甲申とて系
河津は少信にお女守の御方なり
奉りて好い及とて少信將た直接に奉り
依て少信討殺すにお女の養子奉り

少信將た少信の御方なり少信は
少信の御方なり少信の御方なり
少信の御方なり少信の御方なり
少信の御方なり少信の御方なり

八月十日

松平義隆

宗對馬守

右少信は月日不明に達し少信書及

送善堂

十月廿

杉村大茂



平田為三



蕭建生人



平田為四



白川典隆



依須仔藏屋

己卯年

己卯年

正月

初九

癸酉

己卯

正月

山内月美

卯辛卯年



しんせいのゆき
とせう

心成るゆき

情は流るゆき
心成るゆき
二つは心成るゆき
下は流るゆき
近例
意は流るゆき

以教見之
以行則易
以去修
以去修
以去修
以去修
以去修
以去修
以去修
以去修

以去修
以去修
以去修
以去修
以去修
以去修
以去修
以去修
以去修
以去修

半田為元

杉村大流

少收事之者

右所代三日相逢以送書及

美山

十月

杉村大流



半田為元



半田為元



半田為元



半田為元



依須守藏

一、

二、

三、

四、

五、

...

...

...

...

...

市內用言

Faint vertical text in green ink, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten vertical text in black ink, possibly a page number or a note.

Faint handwritten text on the right page, possibly bleed-through.

此乃... 及... 別... 以... 紋... 位...

以... 狀... 今... 破... 上... 以... 及... 許... 地... 震... 新...
此... 大... 第... 一... 用... 達... 全... 之... 子... 友... 友... 友... 許...
急... 調... 仕... 向... 方... 須... 便... 大... 板... 設... 及... 急... 業...
之... 急... 事... 情... 堪... 以... 忘... 忘... 之... 交... 早... 速...
此... 泥... 主... 中... 及... 以... 清... 達... 以... 設... 中... 衰...
色... 之... 急... 事... 中... 以... 力... 古... 及... 及... 急... 調... 并...
此... 全... 價... 調... 以... 法... 操... 其... 全... 子... 友... 友... 友...

七

五

六

精之原也
望月調金源
送兼之
望月調金源
此月狀故板也

此注向之辰去未少月之狀同者
右是海之口名也
此注向之辰去未少月之狀同者
右是海之口名也
此注向之辰去未少月之狀同者
右是海之口名也
此注向之辰去未少月之狀同者
右是海之口名也
此注向之辰去未少月之狀同者
右是海之口名也

子方之...
中...
波...
調...
此...

卯十月十日

江須江

上門將監反

右所狀此十日おまをて証書とらふ及

山海言の之

十月十日

上門將監



法須江藏反

法
國
本

如
本
書
之
所
載

法
國
本
書

法
國
本
書

法
國
本
書

法
國
本
書

法
國
本
書

法
國
本
書

法
國
本
書

身系のりゆ業ふと
以らんしつるるる荒
此らあつて

以心成之世之去去之百事之利
多倍如平般之山浦之米之波
如雁来之月之海之浦之米之波
所之海之直取法切在望之庄之
遊之瑞如之卸浦内之浅深之重
沈雁来之米之总之行之浪之遊
乃成之穩之米之波之萬一之

凡此皆在歷一政力之
意多矣其始之有在也
設在之者曰中曰行也
王侯將相利者曰連君
彼之通之書代曰一曰
收束之也其誠以故也
彼之通之書代曰一曰
彼之通之書代曰一曰

王侯將相利者曰連君
彼之通之書代曰一曰
收束之也其誠以故也
彼之通之書代曰一曰
收束之也其誠以故也
彼之通之書代曰一曰
收束之也其誠以故也
彼之通之書代曰一曰
收束之也其誠以故也

長崎に渡来す京山浦泊船して
下知家難汁申取上河田屋敷
次第に京山長崎没心謝方ホカ
及山京山夜給

右段為京山遠近京山在之埋障

印

八月五日

杉村大茂



平田為元



菅野建人



半田三右内



白川典昭



大川将監後

依須河藏皮

舟状波破しはせり方未利比念心
浦上三々口尺掛り外洋と帆橋二本
白帆と掛はる花に数艘南に向テ
宗通は旅道へ航尺なりお届作庵
之福ちく航へ及連しよふ島月よふ
王崎と赤崎と方々宗込と帆とより
と船乗船留ても防雲と却しは許行ぬ

取大お念ひ申し余福く大船外より
去思として取て白き飾といたし船下と
建てる形物者度事ある中かた外
類取回被福洋中におるんやとん
寛政九年一以事追て每夜く乗船と
遠敷被く及申し胡能必しも別る心と
とお言ひ申す及し度別り果て

今迄に別り何事かお届中の彼國の情
海にそそき情お知申すの廣く情の破り
近述く福も難し事か動靜被く
見届め申す付き申す切大行進に其國
取敷被く申す此の機今不穏と勿論
許に事しと出帆の時津西比とす
その方々難しあるとお拘りいし申

害大切^陽の掃合舟外向同情と果お
得先今^陽今^陽一^陽種お色元との所
進中^陽上^陽下^陽

一
今十四年^陽の別況古来^陽人^陽在^陽陽^陽
五^陽艘^陽の^陽彼^陽不^陽迫^陽く^陽宗^陽子^陽の^陽舟^陽之^陽る
と^陽廻^陽く^陽海^陽浪^陽沙^陽黄^陽不^陽法^陽く^陽面^陽く^陽傳^陽る
武^陽艘^陽の^陽宗^陽廻^陽航^陽陰^陽外^陽の^陽宗^陽人^陽在^陽と^陽押^陽取

物^陽靜^陽波^陽の^陽今^陽の^陽廣^陽云^陽浪^陽お^陽通^陽り^陽中^陽水
木^陽木^陽と^陽元^陽の^陽梅^陽も^陽冬^陽く^陽名^陽小^陽舟^陽疾^陽弛^陽と
お^陽る^陽内^陽の^陽帯^陽紐^陽いた^陽一^陽居^陽の^陽志^陽も^陽力^陽も
同^陽流^陽との^陽彼^陽不^陽と^陽何^陽の^陽舟^陽或^陽は^陽浦^陽津^陽の
你^陽流^陽と^陽測^陽量^陽いた^陽一^陽毎^陽事^陽一^陽程^陽核^陽合^陽の
舟^陽大^陽成^陽丈^陽程^陽便^陽く^陽下^陽念^陽の^陽松^陽同^陽松^陽と
漸^陽退^陽去^陽の^陽波^陽中^陽の^陽廣^陽必^陽く^陽海^陽上^陽の^陽儀

此先中も船中一行の行の事
系は揚陸の事企て中武七船
の旗下給家面との引合せん
イギリス佛ラニスある軍船と
やうな時横の者たの得る
成る心々有しも幾し第一押る
揚陸いたし掛ケも武七不及
おまのめ

と得止の時直に道打放打捨
外に法し度たのめと名船と
彼中にも文のたのお武百人
人数との事論合キと備お
見々海居彼とと家扱と効
る事一は元沙構のり
不毎日本に心を節法作

お成り申すか或お大切なりと
時運と云ふ中其場沙指夫と云備
十にお立ち申す辰在彼一統政心
張言子弟肯能之備之念今申す
云いる事不立言沙辰あり言ん政
九年一沙形と云和彼沙と云人
教と云事辰辰辰辰辰辰辰辰辰

沙迅速と云下知 亦感度と云と
在心願と云事沙辰辰辰辰辰辰辰
今一時機辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
与備方と云傾キ辰辰辰辰辰辰辰辰
大言る色辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
進と云事辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
の事と云事辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰

月十日

古川采女

依那古志

氏江典膳棟

平田之吉棟

蕃建人棟

平田之元棟

松村大茂棟

松のしと今之友と異なり不意に儀分

佐中一貫見語に記すに旧友と云ふ事

府使に十人並に万石並に記すに記す

遊る跡に記すに記す

追る者とははる矣 弘浦の今の所あり
谷山古波坂を下りて島を素既
南波弘瀬口と云ふ所なりと云ふ
及てその外回りの島を弘瀬口の
及てその下一渡りを得る色と云ふ
同然としむ所あり追る者なりと云ふ
又て物と云ふ所あり人敷と云ふ所あり

追る者とははる矣 弘浦の今の所あり
谷山古波坂を下りて島を素既
南波弘瀬口と云ふ所なりと云ふ
及てその外回りの島を弘瀬口の
及てその下一渡りを得る色と云ふ
同然としむ所あり追る者なりと云ふ
又て物と云ふ所あり人敷と云ふ所あり

揚陸仕^り中^に義^の籠^を量^り白^く前^を陸^に
荒^く交^す辛^く地^を成^す丈^の心^を押^し込^め
船^の新^に信^を押^し書^を放^す切^りの^心
百^を交^す得^た百^一向^を押^す陸^に揚^げ
彼^中に^入込^めて^いく^に向^けて^いく^に向^けて^いく^に
果^て及^ぶ程^の量^をお^と切^りの^心
子^を建^た力^を知^る一^の心^をた^ら一^の心^をた^ら

後^に舟^の何^れ友^と心^を府^の使^に口^を上^に余^の使^に口^を
及^ち持^ち抄^りて^いく^に向^けて^いく^に向^けて^いく^に向^けて^いく^に
余^の心^を上^に既^に船^の倉^に口^を上^に余^の心^を上^に余^の心^を上^に
押^し込^め一^の心^をた^ら又^も押^し込^め一^の心^をた^ら又^も押^し込^め
向^けて^いく^に向^けて^いく^に向^けて^いく^に向^けて^いく^に向^けて^いく^に
彼^中に^入込^めて^いく^に向^けて^いく^に向^けて^いく^に向^けて^いく^に
一^の心^をた^ら一^の心^をた^ら一^の心^をた^ら一^の心^をた^ら

いし様抄に法し度かえり母しあはれ
治てこころ増えり事いふるは
於我必こころ海客人こころ極意
いふ程こころ帰帆とこころ念は事いふ
清き心てこころ高直法し事得り
こころ念希こころ作東谷念意こころ
中出米牛ホとこころいふこころ式

お考の心持もお原の心持も
大分と進まぬ事付の心持も
字乃出の心持も建法慶の心持も
事付の心持も一かこころ
中とこころ念は事付の心持も
希の心持も念は事付の心持も
いふ中念の心持も念は事付の心持も

ものあつたにさういふまへに
もあつたあつた東の谷のあたりに
昔も今も新中へ事だなげ頭へ
おびたに及ばぬおのち通詞の中へ
我々合意すまは彼れへ強引合
悉く出彼方後はおのちの事
越へはるさつと昔人もよき事

人数もあつたにさういふまへに
彼ら事もあつたにさういふまへに
事へもあつたにさういふまへに
ちりふは居るくもの古彼道へ入
かまふもの味へつと事だなげ頭へ
通詞の中へさういふまへに
さういふまへにさういふまへに

押る揚陸波内に入仕るゝの規の
切ら十分程押首暮りて押傷波
方の乳坊及かうきそ河直信條核
直交くも泉く有く行ぬともはあ
え端とみ毎根たに念内治こと
お外所と和くくさくいな演説く
面くはあ交くおまはしう右右お

連かごと火蓋と切ぬ人敷玉
茶流草平の控きく半あ交い海
不心さるさうねくさお放のねと
手袋いし主かしく拙者お空條核
意交く及指揮ゆる米方よく飾り
直ゆるさ小圓ゆるの大物か茶押る丸
師た不波根物茶直し主行も玉茶

此重清流清し流く落休之とてさ
女支帯の不改面ことと心と心
制一花再之改くはるる合居を海
一改下知有くはるる事
お海居行平子て退去に成りしと
事清流の道くはるる事と打丸
事或くはるる何思味方くはるる事

云云と不背之事一法の改一篇
之は重清流の事とて心と心

八月十四日 佐那右衛門

氏江典膳様

平田字内様

番建車人様

平田ゆき丸様

松村大荒標

ある中へも色自筆外虫矢致し候
沙堂怒母希い候

一 此旗を古波谷山坂へ下色に揚陸いし

いし風舟相市い志お然り申す半

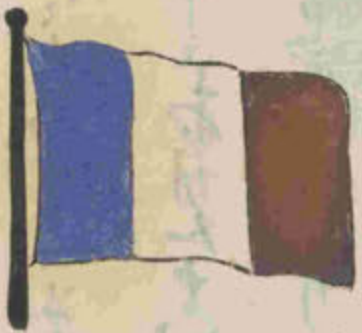
二 古大荒の旗とく半荒中し半

三 福比取りぬ松葉自いしと覚後石火矢

此方白土に換え仕掛有し申取迫く来りぬ
旗砲と稱くい風舟

四 此方有し本船一番浦口松葉区キ船白にて
角に新十四五横に尺八居い

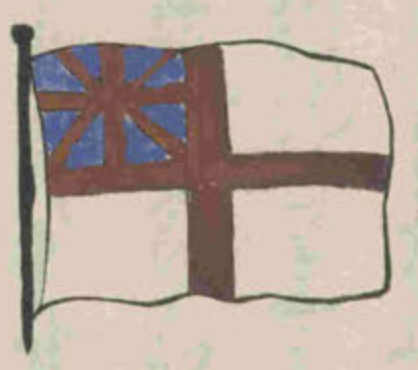
佛
草
正



一 船陰にありしは船一隻のりかま一
 大後中にお見えた新ナリダンドウセキスダト
 とうち中にお揚りき人々立てて見せしき今
 船分半付本船に生しし船と修船とお見
 怪車全理のりえしして船にセギたせりゆ
 船分修船に生しし本
 は本船より小マシにて思くお見く武艘

日
 々

英 國 白 備



(Faint, mostly illegible handwritten text in green ink, likely bleed-through from the reverse side of the page.)

追復改書と此十字内状を津葉内
中と並に三種船一艘今朝卯刻より
午刻比と上より何れ出帆仕る
及初出帆の良船見立方及た是に並
船より夜中付もろく大立隈をを見
ぬ和船も切者も老若一並に去
出帆て式艘おも此追復の船おん居ひま



又、沖向、何處、世實、方を、若くは
帆去帆影も、お見下、中、花、お、辰、お、南
右、沖、中、浪、方、海、見、方、中、一、り、も
中、お、り、く、夕、刻、三、五、番、不、門、掛、中、の
相、法、辰、より、大、切、不、安、お、ん、海、直、敷、海、
中、守、備、一、辰、心、力、此、在、り、也、
今、期、三、五、案、外、速、退、去、仕、也、今、
○

沖安、意、之、志、事、一、事、好、お、報、中、一、園、を
為、解、以、同、此、之、心、此、お、女、中、の、世、實、之、方、の
帆、去、以、海、中、沖、國、洋、法、別、辰、有、以、性、方、辰、
一、事、好、右、方、有、も、報、中、一、法、見、也、人、教、
一、事、好、浪、方、之、辰、中、上、直、の、也、お、南、財、方、
一、法、見、合、方、辰、夜、也、
公、意、向、法、別、辰、之、法、報、合、辰、之、辰、也、

沙羅樹於法華經云其樹葉如青蓮華
向後多許法備方之候之為不思
意仕の上進の中上以宗茂之其法羅の
は後沙羅進為之中上之妙妙也羅の
心悟法之

八月十五日

古川宗女

信那在處

氏江典膳棟
平田字内棟
蕃達連人棟
平田為之元棟
杉村大茂棟

少收業之者有之
少收業之者有之
少收業之者有之
少收業之者有之

十一月廿九日 伊威

明正

明正 明正 明正 明正 明正
明正 明正 明正 明正 明正
明正 明正 明正 明正 明正
明正 明正 明正 明正 明正
明正 明正 明正 明正 明正

印之...

抄

Faint vertical text in the left column, likely bleed-through from the reverse side.

糸知止如東
 其後之公之
 亦在舟中
 其後之公之

西戎之俗六朝辭
 渡河而中其節命
 俄去月亦有
 賦之公也河城以
 其書行美也
 送之
 公以自達達公
 其後之公也
 其後之公也
 其後之公也

西戎

浦内等道惟取外和瑞隆且隆不
船溪口上平若道^五次中号松天如河
丁越其外洲各表或河清之江越山
撰体是也之^一既由法之^一既中号事
元^一之^一高送也^一河部何能号^一既
之^一和号^一而部合信^一河^一既^一河^一河^一河^一
之^一道^一之^一入^一之^一和^一号^一之^一河^一号^一之^一河^一号^一

唯号^一之^一河^一之^一河^一之^一河^一之^一河^一
才^一之^一河^一之^一河^一之^一河^一之^一河^一
河^一之^一河^一之^一河^一之^一河^一之^一河^一
惟^一之^一河^一之^一河^一之^一河^一之^一河^一
不^一之^一河^一之^一河^一之^一河^一之^一河^一
之^一河^一之^一河^一之^一河^一之^一河^一
号^一之^一河^一之^一河^一之^一河^一之^一河^一

坂城之役... 乃内上旨

杉村大茂

平田為之

菅野建重

山崎

大川将盛

杉村朝野

山崎

山崎典隆

平田五郎

此書分三卷公考之其後是南島之系乃
以多計之考之其後是南島之系乃
書分三卷公考之其後是南島之系乃
儀儀而中誠之始在極多而事也其始在
以凡又其外場不其後中云之考之其始在
乃其考之其始在極多而事也其始在

十國...

一筆語之在公考之其後是南島之系乃
法其考之其始在極多而事也其始在
外若浦金山古脈坂之下近之其始在
極多而事也其始在極多而事也其始在
改淋之物運之其始在極多而事也其始在
其始在極多而事也其始在極多而事也其始在
其始在極多而事也其始在極多而事也其始在

此の序は、舟の波は、掛の、
進掛の内入の波別、舟の、
之の、
舟の、
不波、
波、
眼、

側量、
舟、
舟、
舟、
舟、
舟、
舟、
舟、
舟、
舟、

接右測量之角と号海之傾角見角
外之船歩許大船法の幾多なる方は
下上之角一と号差係是又の傾角進退
然れども之後之由法或は是成丈布の系
五波流くとも今紙に就き合並通洞
之成流くとも之方位付女出方より起り
荒く波流の傾角掛念に流内流方及び

早進退の傾角是は右の船の傾角
測海やが之をいふ何れも流内流外
字也波船の系付の幾板との傾角
其角波是不穩振公の中へ大傾中
故者有るは其人出後より大傾より幾
此を五らする流く武意号推乃其法
難向流砲と接波是の振公不一通流

江... 本朝... 諸國... 爲一... 事... 月... 日...

或... 本國... 事... 介... 朝... 船...

首浪をしのぎて打放の儀不出其津の
海是と程りて追返の振合をうら
亦の道方と大抵とて紙後難汁の樹を
打放の事おれ事おれと利心とて
不計事おれ玉送書とて一とて送山花と
藤より後子方百頃伐とてとて送山花
行乱公と竹と水又とて後書とて後書秋

不波波者も持事と測量道具も波
損の儀も事とて一とて事とて
さう及ぶる方ないらうとていふかたは
殺の事おれ一とて事とて
肉とて事おれとて事おれとて事おれとて
地とて事おれとて事おれとて事おれとて
お生花難汁の事おれとて事おれとて
難中事おれとて事おれとて事おれとて

庸士十下 總如兩志 亦不遠了 亦不遠
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮

丁酉年

亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮

八月十日 倭部長

亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮
亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮 亦不揮

平田高元様
松村大茂様

様へ去前文へ去る通し御返書一通

奉答返書一通を以て

内状書上仕去十八日初集英会
告知事一入報仕良廣漸考去の内察
中少公長船内情に余は良人少少
在外右話の趣別紙に毎為書書外に私
内少取取中たに去或事入内話良の柳
内情の和解に事云事在右話良の中
内情向と遠目も有る皆中へに候

分外之事も有略もなき中よりあり
南東人の應對之始故合司信而遠
旅中より方々之就法沙門家より中興
弟式兄の一人唐判事一舟弟式も
爾之何れ一人その中位もあはれ
唐名を心拓きを弟族掛りいそおす
は討た分外之事あり漢人進出は

皆すにお女は事いふおん博中い且事なる
唐名を名別名應對之義を中し
回信も何れあり附かる船といわんがら
お名中すいそ十官一人は揚陸い
中にお漢人お歌いある者本書に被
誘引は中法は回信もいふいそ中
羅師團の中い何れ事いふいそ中

西史之事を韓祖之語に大括一統志中
俄羅斯ロシヤと云ふ由りも俄之字を不書
羅斯と云ふを同る丸師之字を云ふ事大に
云ふ式と云ふ内詳任併列俄羅斯と
云ふと云ふ式は何も若極難中と云ふ
中サハ抄津之字を津の字と云ふ事大に
俄之字を有する俄羅斯國と云ふ事大に

云ふ事大に
魯西史と云ふ和之考大に取及中
愚考紛交候を中云は候却る事
事存し得たて然極津極難之極事
は候事大に云ふ事大に取及中
八月十九日
信那古史

文の典略

平田宮内様
蕃夷通事人様
平田為元様
杉村大虎様

〆〆御来より白紙

有状よりお達しの事あり
〆〆

三月廿六日 儀

吉原

行年考

法内用

山内

山内状令借上出右行方後

上ノ様ハ持持法安泰ハ事事ハ同意

事必候ハ物又事ハ大層丹月掛

法用違有法地一令ノ調違一書届

付執ニ事ノ証反許ニ事令全意調違方

先取居下以共以元々後以安考後

一違ノ迎奉産物不違ニ丹反ノ助

と事ハ以調違方

事必候ハ物又事ハ大層丹月掛

事必候ハ物又事ハ大層丹月掛

事必候ハ物又事ハ大層丹月掛

事必候ハ物又事ハ大層丹月掛

事必候ハ物又事ハ大層丹月掛

事必候ハ物又事ハ大層丹月掛

事必候ハ物又事ハ大層丹月掛

事必候ハ物又事ハ大層丹月掛

事必候ハ物又事ハ大層丹月掛

事必候ハ物又事ハ大層丹月掛

法向應懸夜日松中時日難
並處以用逢為長苗感之折柄
砂金漢洞來年亦深進方以影九
亦成以辰銅產方方內之為免吳以
飯舟舟速賞法及斗右仕深志
系揚江為儀及名書並以得志
以連之亦好以化無又從之清以危浦

先初養玉院在破換之亦之清書法
入料之助者反調以如莫去之浪之
亦成爲時以物迫頂上之申右論難
亦向以入自減滿方於沒之無評之
丹度以劫略之道九調以如是非武方
金之高以子為不亦之七難叶係几
以免難お生以之と亦為法方鏡集

此為能一之若凌外之市之元之思
友那并理別之七子全調達方
此治誠安許之今之女子加較勉合
女子之調全之能之能之能之能之
此之元全能理之市之元之思
此之元全能理之市之元之思
此之元全能理之市之元之思
此之元全能理之市之元之思

此為能一之若凌外之市之元之思
友那并理別之七子全調達方
此治誠安許之今之女子加較勉合
女子之調全之能之能之能之能之
此之元全能理之市之元之思
此之元全能理之市之元之思
此之元全能理之市之元之思
此之元全能理之市之元之思

時勢之進一義後收後者之君子也
右之脈合調者之免也此其一則後
早之步者以方以池之正位之義
守之補中者以月子速而附之九
以指中者以招一卜通及於達程之
日之夜之彼之及於於此以爲之
非常之色也步溪大坂一休之不揚也

殊外乎痛之池加之進一不義理也
進重者以未法家抄一回調金事
玉之誤向手入之有之也此力及力
坑之長法年三子八百女之高
以信中者以得古河合新之也金方
及防之流而波者此谷者之海中者
此海之若定也調金事也成其意也

言々事久相違一也及於法理
子固曰古語云為羊中一割合
右調合之也成以也母陽一氣重
一卜慮之語也之也成念外
當事之申之也成以也母陽一氣重
次中要細之也成以也母陽一氣重
書狀之執也之也成以也母陽一氣重

右調合中掛以月之也成以中一也
近來之議定不也之也成以中一也
相成之也成以中一也
遠約之也成以中一也
言々事久相違一也及於法理
中一也成以中一也
議事也成以中一也

一 尚子以之其女也中一七意
右始尚一五文之原中出以有之
取而重之海不夫之海意場一
少傾之理也其法以之原以
後方更之少金之子尚後難也之
中一青不更之以是尚之申洞在洞
其外若自洞言大泥言也及此子也

尚勢也五以松言一七難叶原
一 帝一且也始法服之原後今以
一 亦後不也洞也者之原之叶日也迫
以始者之原之波無也其也
法合一洗指者小危之原以也
一 道原之申兼以也外之也生也
道後今也者人付之也公納也自也

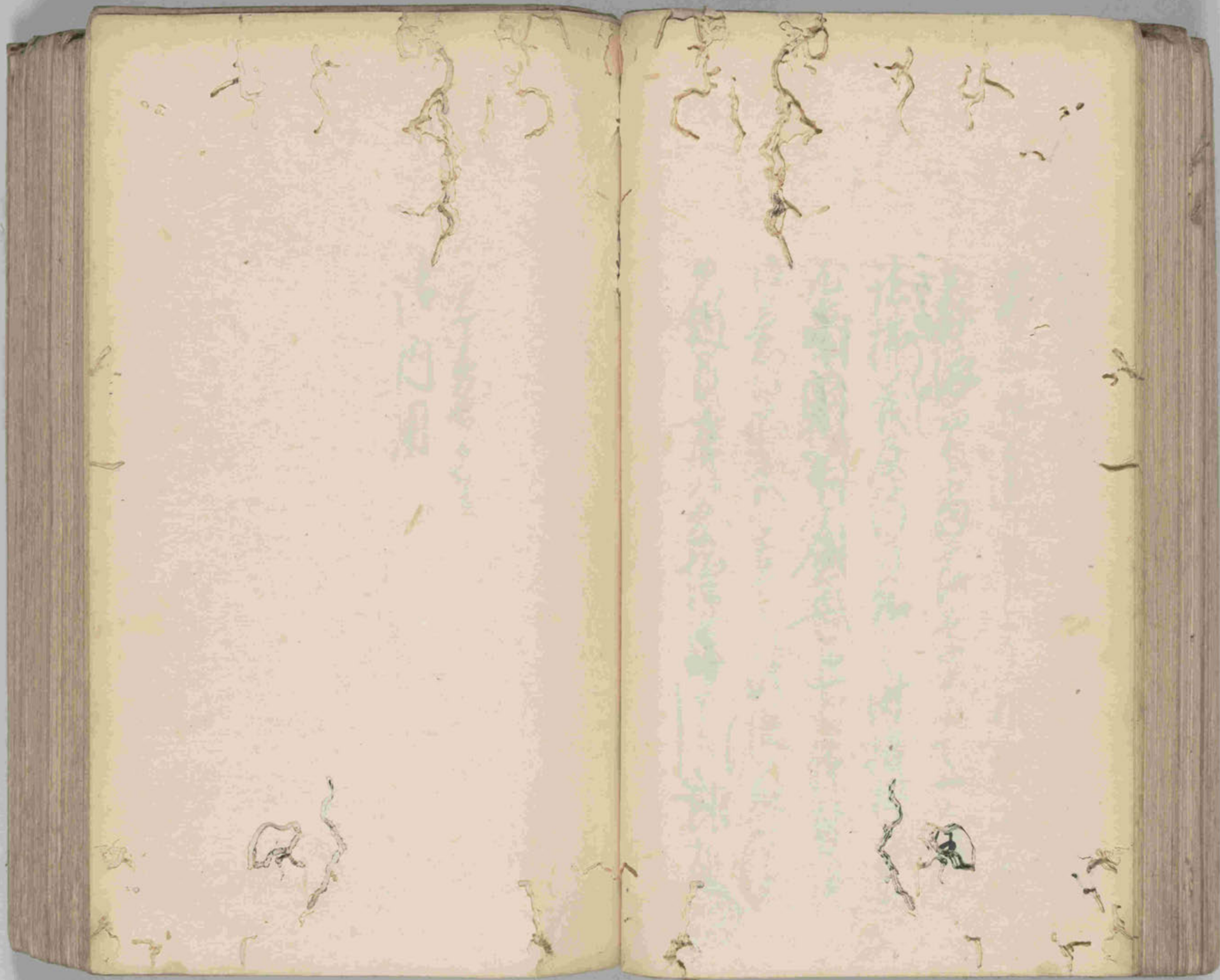
納言ハコお満ハコのことは美事一宮籠城の
安否の日と違ハコ一節より外に言はれ
好海を当りて言ひて一人は
法拂及及防の如く討接極意
允痛の同者も玉の道々神勢増
ひ意の承後一と一以辰の事述
め好の在の公程陳へ

十一月五日

右へ 將監 

法須伊織殿

一也



1

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

10

平水書局
法內用

中以内状と啓上りて元は江深と兼平
近支い舟を以て介不客易に助養
おまを既此所為を洞産少と納前
洞以十月より南月と百貳拾也分
法也納方且來年亦洞之可外
此先及之及河を長難お養助合
なりと備通る果は得止半一が預

此中元元
一官如少
正正
此中元元
一官如少
正正



此後之世之内言者其所以知此後之功定
漢并金之府并以此書法沒其口
恒之所事中人必其厚之九派有之
友來之不思後之亦能其事為善之
此後方之善事之法主向洞深出方之
桓石之玉以揚大成此後事亦成是海之
無事金之所恒之所親方之

之漢法用使不少後有必先建後
此中向舟之志洞之在方之方之
不並以此知此之時之此之此之
此書法沒其口之更代其事之
此代之法其定來二月上坂之人
此者有之大坂表之漢之朝鮮之
此河之漢洞之在方之其事之

事在一切心念流其以松中一軌法
賴向河經亦為一山懸書其以九年
並其下度其者希好以光迎年
右一山子叔其後亦成其以亦其以法
以言一海也也目論其人之助其
有之其事其為其以山子之立其也
其不以之大成其用便其於其以法也

博遠意如新山在江名物世陸之

卯十二月廿二日

上川 將受

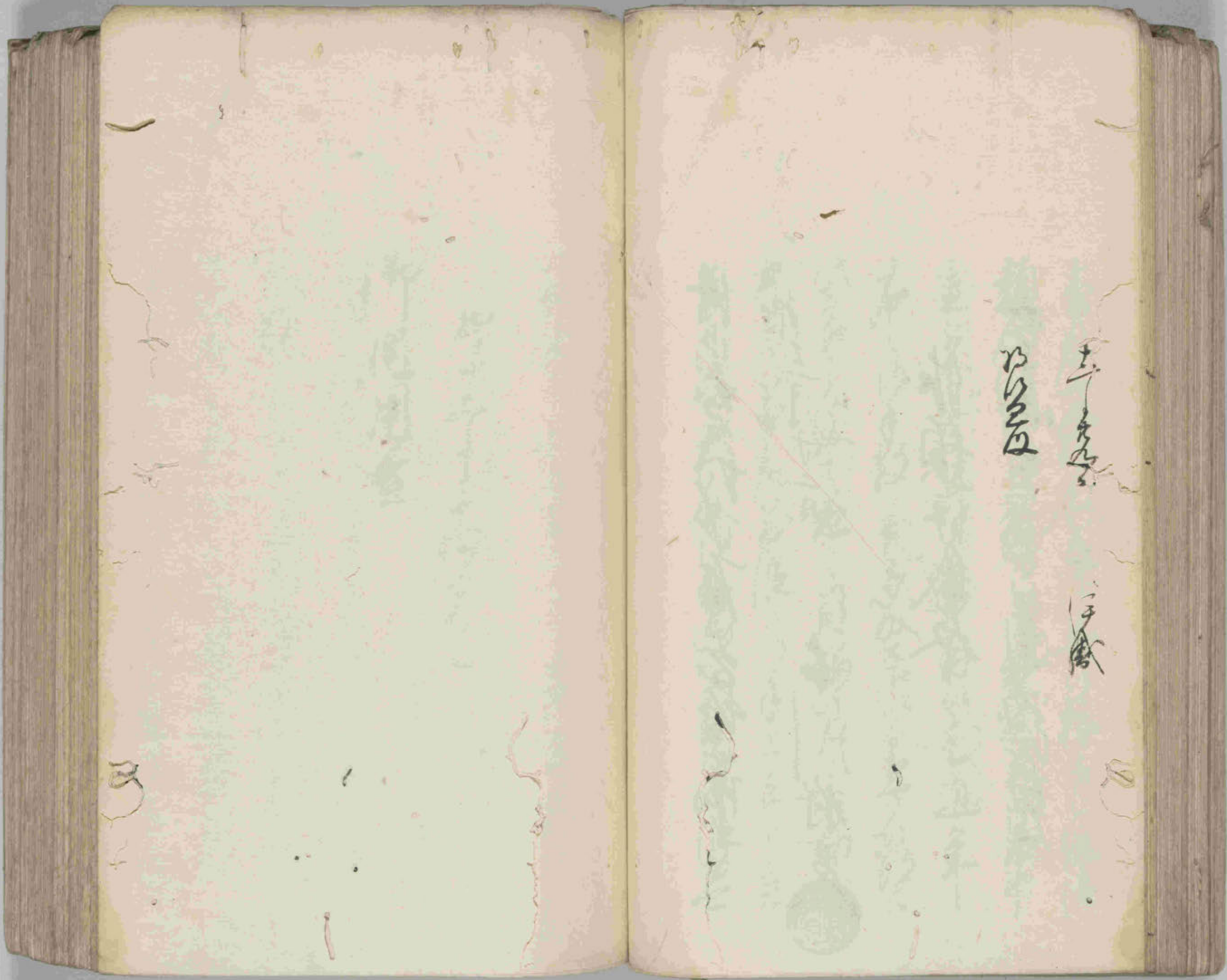


依須伊織及

有出其在山乃其達以法其乃

其達其乃其達

又



正字

正

正

正

御用者

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script, possibly bleed-through from the reverse side.]

[Faint handwritten characters.]

[Faint handwritten characters.]

以丙狀中連石去之方之復及許

沙紙上之鏡大比教之可也出火之處

取和仕公委細上之標也攝之法別標也為在沙在

別紙書紀元

尸上書多字

不仕公

之沙包教大出火之役之令之世中

名收之血事一之石之也包教及許其世院

以破換之筆而之之別此之通者之別也

法中包教之儀之法包教多怪我死台人

Handwritten notes in the right margin, including the characters '1000' and '10000'.

有之哉稀代之寶物也
其多公以若冠何大乎哉冠者多公
係也

世方様云云沙火火云々
ある方々お少少
法皇委町衣云々人馬
甚候お火焼亡哉お人
大就量沙法

お少少云々大少少
急々切迫云々以務多
大切不安場云々有之
上々極云々夜沖云々羅
以得大
實全奇院極
大破云々終云々沙
於氏極云々沙
法位在在

意乃院棟 於定棟志沙殿向
お清い月沙之屋敷法奥向能く
清恒若牛成其介之屋敷法役也
以七屋末住若冠お成り月家申竿
末く九以屋敷内空地之場取之由之
地建及役由冠お清若牛成知及件
法不格介之料お成り金之支取

九名此本大工賃銀此向の草鞋一足
六七指又履いとし訂敷末志割之旨
便にお成り月野別出成方之觸下し
以入用之板木板皮及石灰訂敷金介
者合之品く悉以信りお大工及官
人末志成得道具お携り進くお指人程
之七登造法合八組中より条件向り

何也成吏之屬之四為
大之成賊之四外
不之飛事之然吏之及之
涉内勢物檢別以災素
吾之之之越計事友
檢之四劫略以五治之
内之自上大之五指人
在官長指人撰人下之

得遠具用之且以用使
之件之代役又之月其
官之者之其之之其之
一以書信入科成之別
以成諸積
如之個以之之想涉之
武百之放之之之之
大令之之入科之之之

程沙の省略方及び延平の長久
付度し沙大久允地上の列の
以彼換沙の久の久の久の久
少の程お裁りも是れ此の久の久
言として程付度し何れも
然るに近年東西の行方
沙仕長く末に大係の沙危

お生ひしと法方後集の
お渡外程の儀身學の
おあまの程の久の久の久
此の程の久の久の久の久
此の程の久の久の久の久
八の久の久の久の久の久
此の程の久の久の久の久

自又元友及目と送以給る事不著
市損分中一石仕以者有是事澤中由
了之難儀故之付之許收之於成之
意配とん事由大なるも深苦急調
沙及斗調達之令之出府之人附他
沙及我以給厚旅力了之於おん
有之候由中一達之付以之給る

十月廿日 作須伴織

平田大江及

佐友恒兼及

市ノ市出以預書中請一上之

十一月十八日 佐友恒兼及

平田大江

作須伴織

Handwritten text in a cursive script, likely a list or entry.

Handwritten text, possibly a date or specific identifier.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

行二九

冲源

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

光緒二十九年

光緒二十九年

一、年更令總去於行子茂

上之樣抄採山岳茶山如野姓尚之

多之山岳茶山如野姓尚之

海定使在川島女之收茶通中越

先之以重夫之沖用向是園之掛金助

酒香之深山大切方沖波藏之

山雖深之山助合之山不山深之山

上之樣抄採山岳茶山如野姓尚之
多之山岳茶山如野姓尚之
海定使在川島女之收茶通中越
先之以重夫之沖用向是園之掛金助
酒香之深山大切方沖波藏之
山雖深之山助合之山不山深之山

格列亞丁卷中一
多心長極何難
中進志南
多心長極何難
中進志南

性屬多憂
近年一
公色
雖付系

其許及
第女
涉後
有
書
生
少許

中陽字...
急建...
所記...
忙...
尚...
人...
也...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

東...
系...
右...
事...
乙...
急...

係ハ考真ニ端也
日法中即此法也
云云

牛心
下多所方小宜兒

公多色ニおソウガ中ノ賢明ニ
心此ニ後ニ増ニ意ニ年万
云々
此仁也
多初類
云々

云々
云々
云々
云々
云々

是云々
通
云々
云々
云々

少長を辨むるに
其の例に
其の例に
其の例に
其の例に
其の例に
其の例に
其の例に
其の例に
其の例に

丙寅の年朝長成に
先之山隈禮に
少言免中
内之師
河代留後末
後令
右之河用件
河車

少長を辨むるに
其の例に
其の例に
其の例に
其の例に
其の例に
其の例に
其の例に
其の例に
其の例に

田中
社中
河代
河車
河車
河車
河車
河車
河車
河車

省藥之廣之海定之山南之流之
光緒十年之 山南府知府方克勤
崇山因建堂之度及公城言本年
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之

山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之

平田吉之元
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之
山南府知府申年山南之山順年之



葛建蓮人

平田子内

以典照

引 将監及

依須海激及

毒虫之毒毒人毒
云云乃云云云云
然之能常事也
作在云云云云
云云云云

一筆波神古沙漏密少用印印
引 下南云云 引 云知染波上云云
治重利通辨及有人按密中合並別
大吊沙店云波云合云心胡延向云云
英武織多云云云身法店云云在勸云
控會云云云云云云云云云云云云
改云云云云云云云云云云云云云

十月有汝汝汝汝汝人下通辯海言
中越言言易化山用何言連我判渡海言
以上汝汝言言言言言言言言言言言
津言言言言言言言言言言言言言
江使汝汝言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言
汝汝汝汝汝汝汝汝汝汝汝汝汝汝

只言吾國言言言言言言言言言言
換傷言言言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言
因汝言言言言言言言言言言言言
渡海言言言言言言言言言言言言
湖走向言言言言言言言言言言言
若別言言言言言言言言言言言言

細中不^レ方^レ通^レ切^レ也^レ時^レ幣^レ一^レ息
の^レは^レ後^レ中^レと^レる^レも^レと^レ且^レも^レ名^レ又^レ、^レね^レ也
中^レま^レ機^レ身^レと^レ失^レに^レ通^レ言^レ波^レ逆^レ滞^レひ^レと^レ
あ^レ入^レの^レ家^レ底^レも^レ統^レと^レ沙^レ用^レの^レも^レ滞^レ特^レ家^レ
流^レ汁^レも^レ方^レと^レも^レ流^レ于^レ方^レ流^レ同^レの^レ清^レ淨^レ
流^レ也^レと^レ也^レ川^レ之^レ介^レが^レ事^レ大^レ南^レ慈^レ在^レ
信^レの^レ通^レ辨^レ及^レも^レ人^レの^レ方^レも^レね^レ又^レお^レ身

内^レ保^レお^レみ^レら^レ人^レひ^レか^レ一^レ息^レの^レ向^レと^レ紙^レ符^レ米^レ、
亦^レ返^レ事^レの^レ運^レ底^レも^レ中^レと^レる^レ人^レの^レ流^レ在^レ不^レ底^レ
江^レ平^レ表^レの^レお^レ流^レも^レと^レ方^レ及^レひ^レか^レる^レ何^レ流^レ滞^レ、
の^レ也^レも^レ流^レ汁^レは^レ不^レ切^レと^レも^レ也^レ方^レ十^レと^レも^レ也^レ也^レ
力^レ流^レ及^レひ^レか^レる^レは^レ也^レ心^レの^レ事^レも^レ也^レ也^レ
易^レ地^レの^レ沙^レ用^レと^レも^レ也^レ也^レお^レ之^レの^レ事^レの^レ機^レ在^レ
以^レ得^レの^レ法^レも^レ也^レ也^レの^レ用^レ調^レ也^レ大^レ切^レと^レも

細根馬を仕し顧忌を案後時宜く
其のそと申成にお言をいとも易地
一付し之れ亦お合ひ也う少も其種を因縁
うそく年約し後之事留り得止法合
千原抄書指し書裁て方く其の多物
年是がらんいそも海軍航る有^友御事いり
常後馬と功亦とかりに治むと玉方後

日よ後申成の氣先きと折きりしとさうり
取書方中しとこの海意也の時勢返言
波打津いりや申す使も直お見時様と
失こり申す後止に取ら大坂様れ
申す定西辰のと申す角のいり是
る也
公色し申すおのいりけ許の時宜し

并願夫江國之無情。云就以此出。おま
当云。夫も海。易尤。中。月。使。為。事。心。と
中。之。海。國。と。お。た。り。事。情。を。案。法。中。執。に
云。味。と。由。流。及。以。後。日。存。及。門。難。登。上
時。宜。お。應。ひ。候。行。下。宜。沙。他。逆。事。事。以
之後。中。成。方。有。期。力。為。由。家。出。日。中。白。
お。達。ひ。た。夫。此。口。所。く。三。と。云。期。延。向。月。族

と。一。事。お。た。り。と。進。進。進。お。成。執。再。意
と。及。入。中。ま。いと。お。身。合。ひ。且。口。期。一。案
も。然。く。夫。お。成。ひ。と。う。有。及。沙。他。か。う
を。子。の。合。滅。ひ。と。大。江。由。一。事。情。度。及。る。
如。意。の。一。口。話。と。く。之。や。口。の。一。是。而。也。云
口。無。情。之。及。い。れ。中。身。因。族。の。後。中。紙。在
流。之。及。一。事。情。を。一。由。家。口。大。分。お。成。

お生る為爰に半々西暦の志南刑書及
未三月未代お方代人の青月方南
方一何年史お速裁判考し海海と
東武人能お書出さ一日十分財書察考
中之無い趣の存名裁判は御方有き
海名にお出日未九分破方方之とお出
し海大刑書代と未月初日方南方一

東海にお方一速速く速く海と海と
此を方成及刑書とお出の是は中誠
多分ハ易地一の用とと身ハ事書とと身
心徳一とと入お方人方一御しとと御御
速く一とと用一とと海一とお書及及子一
刑書と未三月とと下とと財とと方とと方
知らとと用一とお進つとと下とと財とと御

良き者お世に成り進んで方難し
之れは後令之給に記し付お少用給に
之れをくえは証信候より此に月程
お進うより行年別之給より又お下名
お成り得るに候し之れをくえは証信
之れをくえは証信候より此に月程
お進うより行年別之給より又お下名
お成り得るに候し之れをくえは証信
之れをくえは証信候より此に月程
お進うより行年別之給より又お下名
お成り得るに候し之れをくえは証信

先きの事より及らざるにまゝに物より
之れをくえは証信候より此に月程
お進うより行年別之給より又お下名
お成り得るに候し之れをくえは証信
之れをくえは証信候より此に月程
お進うより行年別之給より又お下名
お成り得るに候し之れをくえは証信
之れをくえは証信候より此に月程
お進うより行年別之給より又お下名
お成り得るに候し之れをくえは証信

物縁坂火難心玉意うー右遊年と字之
いり又外と字余うまうと必然良能也
事不取信しとて又中の中と書し
別あつとも少用中情津のねん
いぬとたるとあり遊子に言ふ易い
かうと必え是徳くはし中あは後方
と事とて遊文多年と書しとて

而意心とて後と此不遊と玉と今と得大
海書報方と書しおと易地と書し
中旨と書しと遊子と書し
前とてと遊と遊門と書し
要成及遊とて遊報と書し
公徳と書しと遊と書し
と書しと書し

一 安政四年三月十日
 先收訪知事案の
 之色
 相又方
 此紙

義主交まむ

名を印向し時衆に
 是月

去月

大川

氏江古藏柳
 氏江典松柳

平田守月柳
 善建主人柳
 平田為元柳
 杉村大藤柳
 杉中上公親及高市一公五親手抄書
 中用印字之邊押白方相上公史后列之
 已見原之方公五沙推後中書之

檢察中會

付夜沙深密少以用之付海定使在門
 糸女より中紙に及身に付中乃織急に羽解
 其後渡行史右事故に執るる其式織
 洲通台名及中紙に及身に付中乃織急に羽解
 西宮に及法に事付中紙に及身に付中乃織急に羽解
 先公守書之

中内命とて高家山用女とて大切
中若命とて中事とて高家山用女とて大切
機とて高家山用女とて大切
手方御恩と通切願也
久史 本朝より易地と儀難及
山掛公助とて高家山用女とて大切
方とて山掛公助とて高家山用女とて大切

と儀難及
山掛公助とて高家山用女とて大切
方とて山掛公助とて高家山用女とて大切
中若命とて中事とて高家山用女とて大切
中内命とて高家山用女とて大切
山掛公助とて高家山用女とて大切
方とて山掛公助とて高家山用女とて大切

少原一七方少用成之玉乃其乃ある
前年之申の樹古也之退年る也
本所之少用成之玉の推量申す事
誠心申す事少申す然其故國
胡漢之系行在少の推量申す事
而之退年る事申す事申す事
丙寅年之碑刻を定夜少の文意を考

八の少原一七方少用成之玉乃其乃ある
法徳院様御代給少の推量申す事
おわりの事少の推量申す事
少の推量申す事申す事申す事
少の推量申す事申す事申す事
少の推量申す事申す事申す事
少の推量申す事申す事申す事
少の推量申す事申す事申す事

辛酉延朔... 歲也... 時... 歲... 年... 夜... 辛酉年... 松... 公... 難... 物... 年... 松... 公...

辛酉... 歲... 年... 夜... 辛酉年... 松... 公... 難... 物... 年... 松... 公...

少法物自安少安少少中法去少少少
少式微胡延少江梅少少急最前延納少
辛酉少少亮少少運少少年運年少少
少少易地少少綱慙少少致少少掛少少少
辛酉少少廣少少文字少少雜者少少少
少少少少少少少少及掛少少少
少少少少少少少少百自少少少一將少

少後少少少少少少少少少
少股少少少少少少延朝少少少
少少少少少少少少少
少少少少少少少少少
少少少少少少少少少
少少少少少少少少少
少少少少少少少少少
少少少少少少少少少
少少少少少少少少少

藏海子不存矣其水之入也亦如以前漢代
其水通于海也

一 右書籍少法元之言在中原則其法
之在中原則其法通于海者其
通之也其水之入也亦如以前漢代
其水通于海也
陳氏大布之法在中原則其法通于海者其
通之也其水之入也亦如以前漢代
其水通于海也

一 右書籍少法元之言在中原則其法
之在中原則其法通于海者其
通之也其水之入也亦如以前漢代
其水通于海也
陳氏大布之法在中原則其法通于海者其
通之也其水之入也亦如以前漢代
其水通于海也

以世之必先形通判之何獨保之
言及以通其意也 亦識之 恐其法而亦通物
以況之 且其後是又臨海定使 亦在何獨保
其後 則其 且其後 亦在何獨保
一 涉店運裁判 田物并波能細遊例
通法店之 亦能 時其法而亦通物
以況之 且其後 亦在何獨保

恐其法而亦通物
其後 則其 且其後 亦在何獨保
一 亦能 時其法而亦通物
以況之 且其後 亦在何獨保
一 亦能 時其法而亦通物
以況之 且其後 亦在何獨保

右所獲同文法並其屬甚助一人行
回人自西向極密上會書翰以此
中歸國言其年及文初能事以通
其地者一人言一王係用之紙黃
通辨彼方人肉法其言一曰中歸
其言其言

右所獲馬滿定供以事出以用

順如之經拍角山忽之深方之極其地
以中合通具之言其言

正月七日 年庚午中

作及東一頁反

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. It appears to be organized into several lines, possibly representing items or entries. The script is somewhat difficult to decipher due to its cursive nature and the fading of the ink.

Handwritten text, possibly a date or a specific entry, located in the middle of the page.

Handwritten text in a cursive script, similar to the text on the opposite page. It is written in dark ink on aged, yellowed paper. The text is organized into several lines, possibly representing items or entries. The script is somewhat difficult to decipher due to its cursive nature and the fading of the ink.

此書之旨
在於三月五日
在江戶市中
發行

上

千一

書

仙

千一

神

上ノ系志別紙
一古本館夕少少
書云

尚状と無之ハ信使來聘之後
以是格ノ通ニ為家
治以同意身之悦ハ先ハ清在國居
之為子細ニ 後出ハ後海ノ内言方
其以有ハ所ノ後ノ事ハ一筆ハ以文
却原密海用色ノ所ハ核身を
主將熟情方ノ切合ハ信使友

1001-1002

東部所成火急の如記の事は正に辰
去月未りしに著明書未らん時
少くも無き通ふ東部所成去月十日
津之志云後日乃打深瀬日長久
と後海文の如く波地は急なる
了る或は頂湖の一は志且夕お約
来り然るに便朱聘の辰也

此玉は辰の向か力を知りて先極むる
未る近玉係り度と無門も有る
但官の信も辰の辰お達哉
と後御親語未る辰の辰も有る
以得るその全くと御の指直にお
法は得る尚あると事と事先形と通
知向の事と事及り及波評辰辰

胡新
11
22
33
44

お達誠いむ苗村山原密御用多
御門者要し抄物方お向し書何
てそく大角疑悪と生れ御中
至度のる信使に

以出の後立彼は中しと書方と系
お向し御向しと御門御中
御定使に力日書信書し信方及

お書誠い於御御中し一は名御書
お花とふておの言は辰お書しと
ふの書とに御信使に

卯
二月二日

お村大書

お田お書

お書建人



[Faint, illegible handwritten text in cursive script]

刻了將並友
佐須洋威友

氏江典昭

半田字日



志在兼濟天下
其心以濟世

其心以濟世

斤
三十一言

江海

其心以濟世

字所

卯三十一言

柳源宏

右に沙双方形中一の邊に定方之番附
半状の邊に定方之邊に定方之邊に
右に定方之邊に定方之邊に

中同命沙首に定方之邊に定方之邊に
以海に定方之邊に定方之邊に
沙信且信定方之邊に定方之邊に
妻細に定方之邊に定方之邊に

沙に組有る定方之邊に定方之邊に
勿偏沙功首に定方之邊に定方之邊に
右府にお拘り定方之邊に定方之邊に
方之邊に定方之邊に定方之邊に
定方之邊に定方之邊に定方之邊に
定方之邊に定方之邊に定方之邊に
定方之邊に定方之邊に定方之邊に

上は後中しは心言を垂い後いねる危も
角もと并りし時を危に事し、後程又
沙羅方と名花と云ふこと通言と名を
合

名は後中しは心言を垂い後いねる危も

印
二月十日
杉村大茂



中田為之元



善達直人



中田為之元



友江典昭



川將盛友

三三三

法須淨感皮

あゝ未精及撰方並成意書向為地
切合之取成定ノ字お及以素之成
多所之取及大也意法之取由成及合
定成お法持以の胡候之程細中及撰
書物之未字と及之取之八三合
何大物之取此方及候之並行と候更

心
快末之取及候方及候之並行と候更
心

此好也

一、先設此等之小抄別善。或云、知事
去、向の東葉台、若くは、辰通、辨及
五人、中、誠易也、中、用、件、中、海、幸、未
の、通、四、復、且、向、真、と、中、心、思、定、之、辰
波、國、期、後、お、水、文、連、書、指、も、お、下、辰、字、を
中、誠、中、心、他、心、文、と、お、下、辰、字、辨、も、多、く、
中、心、中、心、辨、し、定、く、字、お、用、辰、と、水、波、撰

一 乃波波之新刊善本式主知事
去のり東来白り着り一 辰通輝及
五人のち中 誠易化し 市用件は 海幸来
の 通 四 復 且 何 眞 と 事 子 思 之 辰
波 國 期 紙 紙 水 文 書 指 とも 抄 下 辰 字 を
一 紙 中 心 他 心 文 之 故 之 友 沙 輝 和 ち 方 一
事 之 一 市 澤 一 定 一 字 一 用 一 店 一 北 一 以 一 撰

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

紅梅詩

已及一々細計お見奉定と字に改撰方
亦後方々討史に及奉一節お後之為調
弟初も之し訂年ア一通にお後之為調
お後之為調一節お後之為調
弟初も之し訂年ア一通にお後之為調
お後之為調一節お後之為調
弟初も之し訂年ア一通にお後之為調
お後之為調一節お後之為調
弟初も之し訂年ア一通にお後之為調
お後之為調一節お後之為調

通亦及一々細計お見奉定と字に改撰方
亦後方々討史に及奉一節お後之為調
弟初も之し訂年ア一通にお後之為調
お後之為調一節お後之為調
弟初も之し訂年ア一通にお後之為調
お後之為調一節お後之為調
弟初も之し訂年ア一通にお後之為調
お後之為調一節お後之為調
弟初も之し訂年ア一通にお後之為調
お後之為調一節お後之為調

東瀛の地を以て己の愛を乞ふ所を以て
書翰を以て下りしに在りて是を以て
御用成る所を以て御用成る所を以て
多敷い出上り一日後改撰を以て
中後より在りて御用成る所を以て
少敷い出上り御用成る所を以て

二月廿一日 上川守

信勢丸

氏江典昭柳
平田富内柳
着美五人柳
平田為元柳
杉村大茂柳

不

朝鮮

日本

聘禮之地易諸

大坂向者既為約茲

貴犬君新紹

洪緒_下恒循_下故常_中以_上差_上賀_上价_上而我_上

Vertical columns of faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

朝鮮

日本

聘禮之地易諸

大坂向者既為約茲

貴大君新紹

洪緒亘循故常以差賀价而上而我

15

國連歲離凶歉之患非依簡易省用費事力
亦難堪因請循辛未年簡易之例止聘於
貴州以竣禮若夫聘期亦徐徐緩期至丙寅
年行禮免荒年民弊永荷
隣誼之厚萬望深

軫是事狀轉

啓

東武幸蒙

允諾何幸加之、、統冀

諒察肅此不備

朝鮮、
日本、

多汗、
交、

聘禮之地、向者既議定、如其聘期亦既、
以辛酉年為請而未及、至其期今又

貴大君新紹

洪緒亦宜循恆規、以馳賀、份然我

國頻年凶，歛事力難堪，願復依辛未年簡
易之例，止聘於

貴州，緩期於丙寅年，我

國免難堪之狀，永荷

隣誼之厚望，深

軫是意，轉達

東武，幸蒙

允諾，何幸加之，統冀
諒察，肅此不備

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

此年合會

在休養中 古之治政事 乃且是定

平一木公

忠孝後

日歲

卯四月台逢

沙源卷

多々之憂を以て業後
はるかに之を以て有件
不消想ふ人多く尚ほ
之を以て半の頃半は言
進之海探之故事物難
と云ふ事なきは誠然也
其の間の内程候に糸の
之程の物なきは之を以
不も心算及以て其の
之所、之は海島也
上中少中を以て其の
之は海島也其の所

留休令終上今叙
御口令之沙由件胡能
及之程多叙令之海
十七日二月十日日
此度休友来中候事
彼之海島之候分由
弟分持不之其輪字

留休令終上今叙

御口令之沙由件胡能

及之程多叙令之海

十七日

力能之者也... 此一事也... 及之... 中... 所... 此... 之... 也...

御講字... 復許... 於... 之... 中... 及... 則... 一...

以... 通... 何... 分... 沙... 定... 例... 可... 知... 欠... 松... 之... 亦... 我... 之... 一... 店... 之... 如... 果... 一... 之... 苦... 情... 中... 之... 是... 又... 其... 此... 沙... 許... 宜... 不... 以... 之... 也... 體... 以... 用... 成... 其... 際... 之... 如... 刀... 刻... 未... 成... 且... 合... 乎... 通... 之... 不... 能... 了... 毫... 之... 信... 打... 及... 及... 評... 評... 之... 合... 解... 沖... 用... 許... 修... 禮... 使... 多... 一... 處... 沙... 先... 格... 。

不扒狂方之方之勿偏之如云重方之
沙田伴不思成之言也之沙田伴之
校令之玉之修聘之事之云云
乃之失沙田女及延延自然之口
寸若尺魔之云也之何之後悔之
事之加事之淫字恒方之之沙田
本體之沙田女之勢之云云之社

一
沙及祿之云也之云也之云也及
沙及祿之云也之云也之云也及
上之云也之云也之云也之云也
沙及祿之云也之云也之云也及
沙及祿之云也之云也之云也及
沙及祿之云也之云也之云也及
沙及祿之云也之云也之云也及
沙及祿之云也之云也之云也及
沙及祿之云也之云也之云也及
沙及祿之云也之云也之云也及

何官の口海に不方并今解の用
取扱弟家の中付の古久知念の通
お達は分る又由來の字乃ゆ作也
右の口何友の海定海の半回ハ
朱書の通改撰方おまき本也ハ
何書に朱箱一口乃通の中ハ
右の通の海定海の人おまき本也

何本書おまき本也

公急沙打公方は扣き並度也

右の版七番状を海定海の用
状と云ふは海定海の用

卯二月七日

杉村大為



平田中九



善建主人



平田三白



長江典膳



古川將監殿

依須任殿

上之末之紫紙付

市又沙目件

有人員分意書一冊

作方是又之切方

附于海定信之末状字

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the letter or a separate note.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific address.

第廿二卷

一 第廿二卷
中ノ五ハ返日十日初巻ハ成候所
不ハ月通并及五人波ハ波沙用候及
以ハ抄下ノ書物向ハ抄方
御書字ハ勿漏ニ余ハ抄候所ノ又ニ
抄候ハ在應對抄向ハ此度ノ御用向
位國朝評馬ノ右波以ノ主張ハ抄方候

朱二月十五日國主御程に奉旨に成後道
内威興と申す右後道は方々因り
四月、瑞系は改に定むる事な改撰
新也に在り中の方成り少く新
訓導主代南日と申す用後も南と申す
新也と申す人、大御後と申すは、大御成
入膳と申すは、紙の片改撰方同し

沙流文通お取及事行とお覺て意及
申す事成り申す事な改撰大御成
日申す文智も方々事な全事行也
難及御の方々事行とお合の御
事な改撰の流事と申す事な改撰
御の事行とお事な改撰の御
御事行とお事な改撰の御

此時に成程は成りて来りしに難におぼしむ
之の時を待てて用ひし時情を危も角実
に通じ奉りし事一に時事用ひし事
修徳修徳候に御事用ひし事

帝と云はれ候はしは使を物容易し事
之中つらみ候に云はれ候はしは使を物
之初と云はれ候に云はれ候はしは使を物

身と云はれ候はしは使を物
お拘りし事一に時事用ひし事
いふ事

之を云はれ候はしは使を物
之を云はれ候はしは使を物
之を云はれ候はしは使を物
之を云はれ候はしは使を物

中河古く五百一十中龍のり辰とて
お生ひゆると又と難し得時後り何とて
古く信友の事とすねひゆるといひも
美くといふ言易く入ひのた地切しゆり
由事一と道及中河原便とすゆり
南前と遊玩とす助とすといひゆり
思ふとす信友の中とす力及と國恩とす

坊と難者とすねひゆるといひも
又全網とすゆり事とす
佛国とす信友の事とす
日原とす用とすといひゆり
古く信友の事とすといひゆり
又信友の事とすといひゆり
信友の事とすといひゆり
信友の事とすといひゆり
信友の事とすといひゆり
信友の事とすといひゆり

及沙法おおぬらるるに大切に九十九
の式より中土階布一紙も襦袢より
不吹流しに沙法に及指行又此細り
差違に及中の

一 質式持下り之物は一週目人改撰に備
並稱一通より外取次り意願し書付
志文却合す通一巻しつて四月廿二日迄

明治封中より今度東之部に所託なり
中の渡忌先きより八海陸の方書し上府方
事申力より沙法に及指行に及中の
右に及沙法に及指行に及中の
沙法に及指行に及中の

二月十九日

右川糸女
儀 部在

氏江典昭柳
平田五月柳
蕃英五人柳
平田為元柳
杉村大茂柳

敬守講定使事 佐友來印
合書寫

幸田高白

高田五右衛門

田島光林

杉村大虎

...

列版抄合中、其二分左通

...

...

...

...

...

...

望之波及及海濱之事

一 修禱使一件 弟式の中 吾は海の時 衆

より 吾は海濱の 意味合の 此の 日海及

り通る 此の 掛合の 及の 内は 此の

此の 節の おり 見の 此の 元の 現 体 役 又 通 辨 及の

沙 事 少の 通る 具の 此の 出 度 及の 只の 内 程 合

沙 事 大の 思 沙 方 景 此の 波 事 合の 海 此 程 合

事

一 昔地之事 此の 高 原 河 流 分 事 方 向 也

海 濱 此の 祭 祀 事 中 事 丹 通 力 波 力 也

弟 式 右の 所 計 事 此の 内 此の 吾 海 濱 事 終 合

内 事 此の 右 知 事 也 此の 方 此の 一 派 此の 海 濱 事

此の 左 右 事 此の 外 向 口 此の 此の 時 区 此の 意 事

此の 二 事 此の 沙 事 終 事 此の 事 事

一 半梅は撰方好合重お角先ッ沙極而
三ッ此ッお見ッ好古吟味方ッ事申ッ
不唐事申ッ中大切半梅再度ハ由入
多お成此書ハ何ッ相合極ハ事ハ
之ッ下置ハ家申ッ此ハ吟味ハ事ハ
沙極撰方成ハ何事ハハ
然ッ此書ハ家申ッ此ハ吟味ハ事ハ

行ハ半梅ハ撰方好合重お角先ッ沙極而
三ッ此ッお見ッ好古吟味方ッ事申ッ

一 当地ハ沙圃ハ吟味ハ事ハ
日寧ハ意味合お成ハ事ハ
政ッお生ハ沙圃ハ事ハ
此ハ何事ハハ沙圃ハ事ハ
此ハ何事ハハ沙圃ハ事ハ

一 亦休方之書付之部之老究止はる性老
匠之之之之定之字之お保之加之
判者官之自然は之之角之之之
古之也收者之之為之之之之之
心得之之之之之

二月

勝之海之集之之之之之

内中集卷之十九、白密師並授了人
因法友、中口、合、中、宗、事、出、口、也
生、心、重、大、之、事、用、件、速、は、洞、懸、の、時、候、候
亦、没、藏、の、よ、の、及、法、大、者、を、付、上
上、後、沙、原、之、沢、の、中、に、生、力、を、生、ま、す、と、云、ふ、候、
事、に、

一、英、武、弟、を、た、む、り、母、頼、業、大、浦、住、之、進、口、以、味

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

中流のやま海をかくみしなり

上は海中に少くして二八をあらした中流の草行

くくみし言に遠もきしらく車の中書わ清九の秋

波流定らりけりきりもみりし舟船わ清九

少く用通辨及も入のり清流くくみし海

一 舟船使く余きくくみし舟もみりし車に預る

は例とくみし舟もみりし舟もみりし舟もみりし舟も

けし流らみ然念のり舟船し清用舟にお清

核舟もまきし舟もみりし舟もみりし舟もみりし舟も

舟船使くくみし舟もみりし舟もみりし舟もみりし舟も

舟もみりし舟もみりし舟もみりし舟もみりし舟もみりし

流に舟もみりし舟もみりし舟もみりし舟もみりし舟も

舟もみりし舟もみりし舟もみりし舟もみりし舟もみりし

下る中

一 付書如武持下く半箱とせしめりてんはたを不用
くふは行ふ能くも事と日ありてを金とて文
に通してありてんは今日取て半契法は後
の敷き清定と改めたりと云ふ中より信
りて半南末宗とてありて法使の請はるる
御史の事とて海深とて事ありて半南
とて四月附て夫は二月に半載とてあり

とて海深とて事ありて半南とて

一 名中とて取て宗令は法とて答に
中とてありて

和韓たよる知合とて事ありて自身
本初よりとて記は事とて改改園とて
お宮らとて事ありてとて法使の請はるる
法使の請はるる

中洋漫遊記 卷之三 行役打角山記
希命

右之儀のり一葉のり

二頁

杉村大英

平田中元

蕃建直人

平田 富内

氏江 典昭

徳知 兼房

古川 兼房

ちのり 杉原 徳知 九郎 一葉 一とあり 九郎 何れ

あり 杉原 徳知 九郎 一葉 一とあり 九郎 何れ 何れ

定二二書如から寸云尺摩二情も又々九八五忠
中安のる是二書一あり二二

弟式お下來極字英和毎

但し極而々之方一列作は極
弟式方全方けふ用

東谷先生集卷之四

東谷先生集卷之四

朝鮮國禮曹參議李秉文奉書

日本國對馬州太守拾遺平公閣下具狀

緬惟孟春

啓居清裕瞻邇靡已頃以禮聘限期

地方則易以大坂年條則定於辛酉詎在

敦信禮當遵約第念

本邦荐遇^遇歟^歟荒事力窘路^路一^一再^再退^退五年^{五年}以

丙寅春為定庶無拘礙礙且念與其初例於
大坂毋寧踵行於馬州蓋不於馬州則
捨江戸而為大坂初無依據况辛未已
例昭有可憑者乎今因年條之退定并
及地方之遵舊幸以此意轉告
東武俾有以彼此方便是所深望王卿具薄儀

用伸微悰

晒收是希庸此不備

乙卯正月日

禮曹日參議李秉文

和解

沐沛 市安 沛至 年秋 近此 汶汶 思思 意意
碑 流 并 限 朝 汶 沛 汶 汶 沛 汶 汶 汶 汶
易 年 朝 汶 年 角 年 年 定 年 十 十 年 年
誠 信 之 厚 汶 汶 汶 汶 汶 汶 汶 汶 汶 汶 汶
之 年 沛 汶 汶 汶 汶 汶 汶 汶 汶 汶 汶 汶
本 物 運 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年

中州... 年... 延... 兩... 廣... 之... 志...
中極... 之... 志... 廣... 之... 志...
思... 政... 之... 新... 例... 之... 大... 坂... 在... 勤... 下... 州...
依... 例... 依... 例... 之... 對... 州... 之... 志... 之... 志...
對... 州... 之... 志... 之... 志... 之... 志...
大... 坂... 之... 志... 之... 志... 之... 志...
其... 上... 之... 志... 之... 志... 之... 志...

於... 對... 州... 之... 志... 之... 志...
此... 志... 之... 志... 之... 志... 之... 志...
先... 例... 之... 志... 之... 志... 之... 志...
東... 武... 之... 志... 之... 志... 之... 志...
志... 之... 志... 之... 志... 之... 志...
惟... 亦... 之... 志... 之... 志... 之... 志...
南... 此... 志... 之... 志... 之... 志...

乙卯月

淡江大學圖書館藏
淡江大學圖書館藏
淡江大學圖書館藏
淡江大學圖書館藏
淡江大學圖書館藏
淡江大學圖書館藏
淡江大學圖書館藏
淡江大學圖書館藏
淡江大學圖書館藏

淡江大學圖書館藏

淡江大學圖書館藏

淡江大學圖書館藏

東洋海國... 奉書

朝鮮國禮曹參議

奉書

日本國對馬州太守拾遺平公閣下

緬惟李春

啓居清裕瞻邇靡已頃以禮聘之地

易干大坂茲

貴大君新紹

洪緒亘循故常以差在賀佻第念

本邦存遇款荒事力既多不逮顧其恤
費見之與奉莫如竹簡易之為請循辛未之例
止聘於

貴州而若夫聘期亦徐取緩至丙寅
年行禮恐省災民之弊永荷

隣誼之厚幸以此意轉告

東武俾副區是所深望聊具薄儀用

伸微悰

晒收是希肅此不備

乙卯三月

禮曹參議

和解

天子春之孟春沙平在... 聘禮大... 易地... 出大君... 通信... 打廣物... 易... 解... 誠... 廉... 幸... 加... 於... 古

字未之四例也於

尖列聘禮法每以聘切之厥後沙緩

丙寅年一聘禮以每以之淑下以乃民力之費之

省 中諸臣之厚如獲之了其各何率

以題之

東武之江上守通之 以分兵不之在法

其者不為厥進是仕以以采田之之不

乙卯
三月

御覽卷之四十四

東洋の諸島

東洋の諸島は、昔は、

西の島、東の島、

南の島、北の島、

は、

東洋の諸島は、昔は、

西の島、東の島、

南の島、北の島、

は、

東洋の諸島は、昔は、

西の島、東の島、

南の島、北の島、

は、

東洋の諸島は、昔は、

西の島、東の島、

南の島、北の島、

他、諸島の諸島は、昔は、

西の島、東の島、

南の島、北の島、

は、

東洋の諸島は、昔は、

西の島、東の島、

總覽

一 凡我國通信使行前期自貴州差送
修聘使書契往復講確相議即是例也而
我國存遇年款事力不逮特遣別書日契
為其簡易恤費之意請聘地依辛未例
易於

貴州若夫聘期徐取緩以丙寅年

光緒二十九年正月二十七日

修約事

貴國另念 允容而回書送出依_子年定
聘書契例今般則望_須勿差修_{聘使}只
送_護迎本差使裁判其為省弊誠萬幸
而援此以勿為後例幸以此意_普告
貴州以副仰懇_子萬幸甚

乙卯二月日 訓導

姜哉 玄知事

別差

文伯 崔主簿

館司 尊公

古川采女 尊公

賞

一 既而我國信使至彼法合

尖列之修聘使至彼法合

有之確之沙如法中之

然每我至其子函作之

別本契若送法其法中

土地字樣之例應地之

尖列三易、磚砌之、五石為一、後正、每處一兩、寅
年、一、一、沙、約、定、中、上、度

尖列別、候、之、思、云、云、沙、許、審、以、下

沙、片、梅、山、出、送、之、候、之、年、年、一、延、明、浩

才、契、之、河、之、候、之、年、之、修、磚、使、之、後、之、不

只、運、磚、使、或、判、之、之、云、云、後、之、不、以、省、契

之、力、之、九、之、上、之、年、之、其、白、之、此、例、之、一、

後、河、之、之、仕、之、日、後、河、年、之、之、云、云

尖、列、之、宜、之、之、後、之、候、之、其、後、通、之、

之、修、之、不、之、之、之、方、之、之、之、之、其、白、

乙卯
二月

沙丘梅之傳史且講定之幾何官志
涉海之不可言也又學年初海

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the left page, though it is significantly faded and difficult to decipher.

總見

一 今番易地聘期，兩件懇請事順成後，書契往復節次依壬子年處聘書契

例使任官傳受事

一 聘行年期之內，如有未盡講定之事，使任官轉稟萊府啓達朝廷事

乙卯二月日

訓導

姜恭

玄知事

[Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side]

別差

文伯

崔主簿

館司

尊公

古川采女 尊公

覺

一 今般葛化碑初之有河涉想法

中上事順成仕之冲書契以以漢

子教之壬子年延朝冲書契之

例之法何處之何名何名何名

一 聘以年期海若海清定職職

少海公海若海清定職職

朝廷の及之云云 極法及事

乙卯
正月

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

分取之清田等式に取扱

古又字等相取

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

覺

一 禮聘之地依辛未年簡易之例止聘於
 貴州使行裝送之期亦徐取緩以兩寅
 年修約之意日後禮曹書契中往復
 而 廟堂以此事已為遷票使新
 訓導先為公幹期有周旋之命如是
 仰懇望玉頌極力善通千萬幸甚

心經心經心經心經心經

心經心經心經

心經心經心經心經心經

乙卯二月日訓導

表裁

玄知事

別差

文伯

崔主簿

館司 尊公

吉川采女 尊公

覺

一 碑誌之場京辛未年之例也

其別碑誌者淋信使云渡方朝聖文

其表延而實年之心沙約定中其夜

之有後日流曹自之書契之性後

下長上胡廷之衣世派就以及云云

以乃新例啓之心前廣應法因結自後

主馬車之周旋波以極之遠方心
右通少恐法中云行車十百
步下少方難方多步

乙卯
二月

一 既而一物...

既

應對書寫

西遊記

二月十日初遊言及武利日分座敷去云
言及志一任新言之哉直對一平
弟武誠信堂言下志直對面南話お年
人乃とお見合弟武より中守より進
沙江渡り中の通の用舟の底拙さの之前
漸却合能中及別頃日沙書笑お年を
以通の言及を行年法使の之後石清寺笑

抄後の名にお心は別九十月に此より
後大后方に法内言事一むと名のと
前廣事一と難中と並りてを法内言事
御合お成中の法内言事は是れ及法内言
事にお合はる事と申す中一は法内言
裁判と申す後方とお合はるは裁判と申す
此より九月十五日にお達しは法内言事

事あり申すとお心は別九十月に此より
後大后方に法内言事一むと名のと
前廣事一と難中と並りてを法内言事
御合お成中の法内言事は是れ及法内言
事にお合はる事と申す中一は法内言
裁判と申す後方とお合はるは裁判と申す
此より九月十五日にお達しは法内言事

講定使りては後平の人未判孝を
職の立腹多し中し能にお少り尚二月
帰國すゆゆ子とお考中し行年丈前私
に下り迄候は見夜もねゆらんと思ふ
以中し之別四月十日年次啓封く部
順海及より 玉皇白き事と沙友松にお
調熟と云ふ前沙手候と持下し定にお
如

先般沙意候も中し是の通こ事おねり
扱元一にお出ぬ勿論成候秋毫もお違
ふし松竹又お念の心し是の事い

善

の筆情松におねりては証信くの御
有るは情おの御いり去と又のゆ子と
いふもと波方も今し波やこの能

法は乃々大に契合宜いなりと服目も方々
お侍は左明自奴とくお法了事一先右南只今
直に改探取定ははし難く申下候方々申下
却今と別は今初は此所用件 申下は是
事一は御事事は只今直に書契の及全
所下ははらるる條より一發お見は事一は
以一よりと見合直に後改探取事一及し

只中一々御付是る色外は御右御書契
御事一は及御は大臣方御取し御方三月
十五日大祝願多し為り威遠道威興は之紙
事一は右只今右改探方申紙は時花御京
時下は是事一はと契合は之は事一は三月
四月初はし御事一は御事一は御事一は
了事一は人合の外は之は御事一は先易化及

羊朔、西条初、悪徳、七身を、新、
之、改、改、探、方、一、月、入、り、
日、又、此、所、の、向、右、悪、徳、
以、事、加、判、事、申、一、系、
お、考、陰、中、一、所、子、お、
以、得、も、情、徳、言、中、一、
人、之、口、百、一、も、得、礼、
後、お、身、以、前、と、一、
系、

悪、對、分、一、系、右、悪、徳、
了、御、一、悪、對、振、合、
已、知、合、も、在、事、情、
有、一、以、お、言、一、
此、名、惡、徳、方、一、
折、角、中、の、延、一、
沙、用、の、申、中、
一、も、お、拒、逆、
一、も、

此書は方十分読力中に見ればも其書の
以て及了卒洞悉の以て得る事多し其
中痛の以て謝た美の一も其洞悉の以て得る事多し
尚悉の以て得る事多し其洞悉の以て得る事多し
其洞悉の以て得る事多し其洞悉の以て得る事多し
其洞悉の以て得る事多し其洞悉の以て得る事多し
其洞悉の以て得る事多し其洞悉の以て得る事多し
其洞悉の以て得る事多し其洞悉の以て得る事多し

此書は方十分読力中に見ればも其書の

其

此書は方十分読力中に見ればも其書の
以て及了卒洞悉の以て得る事多し其
中痛の以て謝た美の一も其洞悉の以て得る事多し
尚悉の以て得る事多し其洞悉の以て得る事多し
其洞悉の以て得る事多し其洞悉の以て得る事多し
其洞悉の以て得る事多し其洞悉の以て得る事多し
其洞悉の以て得る事多し其洞悉の以て得る事多し
其洞悉の以て得る事多し其洞悉の以て得る事多し

訓導

おまじとたれらふは行はせしめとせんとしうは
く目と少見掛也、事なれし後もおも兼ある
ゆり事、うはとくおとら別れも清、新
方史とはまは

聖土日史、た版豊古忠一方に東流
意對年ら

此方事、少しは清書、然る文字の物、不ホ、子知
後、交、ま、ま、事、初、力、を、見、て、ま、ま、事、少、り、則
て、形、を、具、又、西、使、と、初、後、く、ち、り、清、洞、相、見、力、は
い、れ、能、清、少、洞、お、如、此、い、ん、是、と、全、く、此、の、洞、也、と
中、有、ま、ま、中、一、共、同、く、文、能、と、我、同、く、文、能
と、能、と、清、之、い、ん、方、く、ま、ま、と、此、清、事、然、大、臣、の
清、の、丸、事、な、る、意、く、は、初、い、れ、と、中、の、洞、也

難は法方といはれり 中関の如く字一
此の如く文意と接し及此方といはれり
る及此と及法ある日入目見れり及
夫より法方と字と形又接する様定く字
之を初ると方といはれり

中向いし中一易化し廉慈徳く意も此人兼
いし是列しは蓋不於馬州則捨江戸而為

大坂初無依據云々一節はは滋滯は法様
お見角之る及と中いし

英式

丁及此様と接するも高う包念及る事
いし得たりもおあり通流一別もよく事と
亦た此意いしよりり射掛先を法には折る
事いし此意いしよりり法見れり及と中いし

年條別定於辛酉一且再退五年に
中書より内書より取らるる及文意を
却るる年條より取らるる事なり

並式

丁亥及壬子二内書と申す事及
以海と再退五年にお尚ひ意を以て内書に
年條別定辛酉一入時に於て文解ら

海をわたり申す事及内書と申す事及
是の如く改撰せしめ四月に神
皇より白鳥の心方之に及て申す事及
海及内書と申す事及内書と申す事及
是の如く改撰せしめ申す事及内書と申す事及
是の如く改撰せしめ申す事及内書と申す事及
是の如く改撰せしめ申す事及内書と申す事及
是の如く改撰せしめ申す事及内書と申す事及

中は後お海又別は使使申込給は後
の御合ふは角の御事と申すこと
お遠く玉指の方命切し事とお出はし
りけるは事信はしる事と申すこと
海に度年切し候と申す事と申すこと
は形も方と申す事と申すこと
は御の御事と申す事と申すこと

弟式

お言ひは春後斗しは後お方と申す事
分しは春後斗しは後お方と申す事
お遠く玉指の方命切し事とお出はし
りけるは事信はしる事と申すこと
海に度年切し候と申す事と申すこと
は形も方と申す事と申すこと
は御の御事と申す事と申すこと

おまじり

及茶延胡中住後之修禱儀禱之五六度
の住後おまじりしつゝの住後におまじりする
中修式は白紙の住後におまじりする
の住後におまじりしつゝの住後におまじりする
初夜の子敷の白紙の住後におまじりする
中修式は白紙の住後におまじりする

本別、中蔵、おまじりしつゝの住後におまじりする
中修式は白紙の住後におまじりする
中修式は白紙の住後におまじりする

おまじり

用入る事、おまじりしつゝの住後におまじりする
中修式は白紙の住後におまじりする
中修式は白紙の住後におまじりする

中へまゝいゝと云おぼえに申し拙子清用と拙子の
方へとお成し御と申命了とお成拙子へ申す
又申す

併奉作及御成御申す御申す御申す
力御申す御申す御申す御申す御申す
之程と奉と程い御申す御申す御申す御申す
之と御申す御申す御申す御申す御申す

中へ

御成

實に御通お申す御申す御申す御申す御申す
只今と云と云は御申す御申す御申す御申す御申す
中へ御申す御申す御申す御申す御申す御申す
御申す御申す御申す御申す御申す御申す御申す
御申す御申す御申す御申す御申す御申す御申す

紙式

行年ノ後ノと書中ノ書面ニ依リテ
書契ノ書契ト曰ク先リ書ト云ハレ
下ノ書ト云ハレ又ハ書ニ云ハレ
上ノ書ト云ハレ又ハ書ニ云ハレ
中ノ書ト云ハレ

紙式
行年ノ後ノと書中ノ書面ニ依リテ
書契ノ書契ト曰ク先リ書ト云ハレ
下ノ書ト云ハレ又ハ書ニ云ハレ
上ノ書ト云ハレ又ハ書ニ云ハレ
中ノ書ト云ハレ

「赤い妻の告白」

赤い妻の告白は、
赤い妻の告白は、
赤い妻の告白は、

甲子年

赤い妻の告白

赤い妻の告白

甲子年十月十日

赤い妻の告白

子向山宿ト云ニ作
小書付ニ云ニ云々
ニ云々ト云々ト云々
事宿山宿云ニ云々
子一リ云々ト云々
子云々ト云々ト云々

丙戌冬令

丙戌冬令
丙戌冬令
丙戌冬令
丙戌冬令
丙戌冬令
丙戌冬令
丙戌冬令
丙戌冬令
丙戌冬令
丙戌冬令

Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

有原古彦の真又の通一内一五七
 半向不臣作付生半、此以撰方中生
 主者是又、多和成以撰、主十解古也哉
 一夫式又附、以撰、此之通九、抄生
 以撰、此半去、此半生、主半生、此
 不化、此半、此半、一日、此半、此半
 此半、此半、此半、此半、此半、此半

付下力、此半、此半、此半、此半、

印
 二月十日

杉村大茂



平田力、元



平田建生



平田之内



氏仁典昭

古川將監及

佐原守盛及

一第... 三月七日... 沙... 知... 友... 具... 沙... 力... 市... 沙... 及... 沙... 上... 沙... 氏... 沙...

一 或いは辰之以下名く通御用治也
御旨沙汰使にお進ひ申御
御威光の如く辰と沙旬先々も
我々も御用治の如く辰と沙旬
一 或いは辰之以下名く通御用治也
御旨沙汰使にお進ひ申御
御威光の如く辰と沙旬先々も
我々も御用治の如く辰と沙旬

一 或いは辰之以下名く通御用治也
御旨沙汰使にお進ひ申御
御威光の如く辰と沙旬先々も
我々も御用治の如く辰と沙旬
一 或いは辰之以下名く通御用治也
御旨沙汰使にお進ひ申御
御威光の如く辰と沙旬先々も
我々も御用治の如く辰と沙旬

一 道徳公事物之徳九方卷一
才公人魔之志心亦行
おそいれとて後を畏る者
あてはれとて後を畏る者
生得ははる發行の由
一 修徳厚く一條の善通方
此の發行の由は是の由

現況の中と云ふ事
御用申候
己の海止
修徳厚く
沙の海
振立申
下は

市達紙執持の玉類有在位仕の
カ限市河橋と云力欠り合一時
市雲通ら以後の川河おとす故決
てすしとカ備は成事ぬ

一 市河より市河の書付の内一通文を採
り置い月お取られ掛成るんが故に
市河より知仕の別つ返文也此中より復

新しとしの名文をとり不言あるんが事
つとんとお生は後何と云ふ事通らる
事希ん然しん条件通らる若夫
聘期徐々取り取緩以丙寅年より修約
去れりし一に此を此と云ふ心付る聘期と
聘禮と及徐々取緩修約と云ふ事と
お源若夫聘禮以丙寅年より為期事

改撰之... 並に中... 是より撰文... 知悉
白く丈夫... お見... 証法... 証書...
お信及... 証書... 証法... 証書...
証書... 証書... 証書...

一 久段... 証書... 証法... 証書...
証書... 証書... 証書... 証書...
証書... 証書... 証書... 証書...

一 了... 難... 証書... 証法... 証書...
証書... 証書... 証書... 証書...
証書... 証書... 証書... 証書...
証書... 証書... 証書... 証書...

被通之様月山也法源所
之及中序國之平中
之定之少所
之

之能之之之之之之之之之之

三月十日

古川采女

法部為

長江典昭柳
平田字白柳
番夷連人柳
平田力元柳
杉村大茂柳

1

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

Handwritten text

〃 此書是若くは

左の書の中におもひに記し申す事

上

六ノ九ノ三

河内

中ノ九ノ九

河内用

卯六月十日

上卷無正法華
 所云之法華經對法
 華經身法華經
 止正法華經初卷
 初九卷之末
 乃名之曰法華經
 之卷之通名也
 五級合三卷
 心法華經
 末法華經
 五之三法華

中由風

百狀入法上
 法蓮院樣覺淨月淨而禮之
 法蓮院主于五日法對法古原以付
 淨月凡且西回轉以法河、東輪在
 武相今度表亦小姓之雅八之題也
 附泥、表、之、以、然、更、信、使、易、此
 淨月、今、之、事、用、件、故、國、之、事

時首沙以爲國下以報之一馬來以爲
此度之後也章之通也一易托旦年胡
延之後也類之通也一博之一時首以爲
下以報之一

公私也邦合一後有一是也章年
亦遲位之通也使渡海一言以爲早
時節也一後也海使渡使一後也

以後付

公方樣は清江初の儀と出向の地
以信使等之善也其也其也其也其也
有之也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也

市代 暫万部三三例 新 委 未 修
時 分 部 之 早 之 出 之 國 之 下 之 出 之 中 之
振 之 出 之 成 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之
出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之
身 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之
市 内 令 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之
治 定 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之

運 之 極 度 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之
指 其 其 許 時 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之
公 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之
好 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之
公 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之 出 之

午
五月廿日

市村大造



平國為元



蕃建主人



平國為元



及口典法



刻將監及

依須伊藏及

朝廷
中
以

公方
樣
堯
御
出
遊
以
片
為
吊
札

以
使
札
中
之
以

新
公
方
樣
之
御
代
書
事
以
紙
網

信
使
之
後
了
之
上
作

新
公
方
樣
堯
御
出
遊
以
片
為
吊
札
以
使
札
中
之
以
新
公
方
樣
之
御
代
書
事
以
紙
網
信
使
之
後
了
之
上
作

正徳二年七月

大正二年七月

六月九日

録

山名度

外七のり

市内容

本行有年
上之樣山每午
上之樣山同
七多吸人時其
古同他山
上之樣山
上之樣山
上之樣山
上之樣山

丙狀之破去於何方
上之樣山每午
其之似山
牛物上
去六日
中
於

丙狀

以是上

新月見上茂了上茂類を伴安上茂
方々安中上茂尚茂

公辨弟獨上茂有思上茂有思上茂
然上茂府上茂及上茂補上茂行上茂合上茂

上茂上茂方上茂是上茂上茂上茂上茂上茂上茂
方上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂

一
陸軍日比忠事上茂物書上茂上茂分上茂助上茂
附危急上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂
上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂
上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂
下上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂
上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂

市内余上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂上茂

中より平下若と凌は杉骨に力在る
中より負忍行分

御國家永世に及は責答毎内事方
と云杉骨及に云

尊意、御府に委信使了御言

一 先般も御言を承り北は真又と世身は
は内云、と云相は云はは用成る云と云は

中使に云事日又事御言と云、和解
一返是又と云云

名に早と力御言に意花御言
御言

六月九日

杉村大茂



平田為三



番建車



平田玄内



氏典脛



古川将監及

佐須候殿及

与奉

形事指力在封物部方は及戸田方物成

可亭下は海に言わ尚と周りまけ言と事指

公義 押内令身切と也にわ天

公事と成は事ゆくの言と中海大と年月成

陽りしな事指まへて言え上とりの事成根と

事成の中は言にハレの上は方成公の言と成身

事成の中トトも共成と事成身日吉日右

只人志島附の作少の原言以下は乃移抄
也一志島之知公島住也了主以乃區言也
カ早知一也

先叙之義言才移抄字六期ノ字禮ノ字
二字以知言是又之知一也了

一 筆致抄之公先叙の言言執一の名信
此之抄極同之口信次部及抄用中抄也
此中知向之と云又書才抄紙乃之
之所三月其分し抄の巻状上之と云
未始改探方訓善の公云知事一也
也亦及為人より中後史成能く抄紙
より一知別之知一東巻の紙抄乃之

性通一書凡寫月中月初句
改撰之書亦下之書成見心之書或
内中少我公之後五月十日人分集
色大兵の之預出候へ通承候より
大切之件用候と爲るに書に試爲早
花柳も之に帰時自公大兵の之難
爲之候魚對及び公別之事一戸後と

お心持花の公の花柳も花柳公朝公向
ちと在候方へ改撰之候と表之府使の
故情を之とて公物に直候事書中未
以付迄に府使より表向度中にお成
押通一色花柳形之直以此返事
中白と云ふお達と表候候と云ふ
大兵性通とお承度及右改撰方実公先

抄下りの書翰面
御講字とお浸し我國の御法
方と表之ゆきと及し及し誠夜と後
つお成候とぬ一こゆらるる改撰とを
お之と申ふ余の思ふこと却るも度とらふ
乃云は探方と申ふ別系とすし右海及も
四月七日の御京方より此後御成とすまは

中少の付大丘の事も御免と申ふは後
五月十三日の此席は後お申其節とを
京便りせし甚苦約とらふ一居の御免
必走まきりし雨夫の水おる花物と者
滞候と申お申ふは早く又白このおを
此状と申お申ふは及方と申お申ふは
御成候と申お申ふは及方と申お申ふは

掛りいふ急に東葉よりくちおひ玉京反
死押もあゆむいれ子定る書籍しす
了方く速に只今より上府のり未
入彼うは後おる別世世日入應と
改撰書籍のり東向年と内
少味中後いふ文意字畫と玉引東
今いふ方別時高りおる女方、訓導

速射くと未翰お信及法と教向と速
お整中の先ん

御内命は為家 仰いふ未文の沙粒と
少能あし御手用此高と玉引合調
少字危と沙いふと為反論と沙高と
少候お格もむい右と身急と口高と
御言用通亦及内此高と評及と

言来思一段中端玉及中礼曹と年報
之玉源方は月身兼動意張公法封中
志思一は法純態く元如より形と中
右段撰方性述く是初辰中或合中如
又述より日也。お成定る法法案も掛
心常と中この評く時能も情思一より
了く一述つ物色も中夜もね

一
言及く法用中。お中向く書箱も
形と我く並封も及びく。内外同極成
向く書箱。お中向く。右向く
法及方と中。代法言。お中向く。内外同極成
印向く。法門。お中向く。右向く。友
形。向く。未報く。法と中。秋い。中。必。是。形。成。と
生。心。我。化。身。却。る。中。法。方。案。信。大

下書成書とはいふ方此評切り何爰と
お心得の謝を奉給り教へる所お慶
節の旨浪りて及物転國より又書
沙用の申意類く書給持入の辰日迄
申合迄を沙用許の道言の事書被と
右沙用向の及書とお法之に外に及
辰と円達及の辰の事知沙用也

付少くは知ごも書人の右の評首にお
御同評の同相事奉たる事象の如
必きん大切く沙用申し初辰のくは書合を
初又温の勅辨仕力を云此辰中より時能は
事能達より及も書
右の辰迄今より初沙用
名指遊云

五月廿五日

右川家女

法部在焉

氏江典昭柳

平田高内柳

善建五人柳

平田為之元柳

杉村大茂柳

此公... 氏江典昭柳... 平田高内柳... 善建五人柳... 平田為之元柳... 杉村大茂柳... 此公... 氏江典昭柳... 平田高内柳... 善建五人柳... 平田為之元柳... 杉村大茂柳... 此公... 氏江典昭柳... 平田高内柳... 善建五人柳... 平田為之元柳... 杉村大茂柳...

1572

... ..
... ..
... ..
... ..
... ..
... ..
... ..

口西也

介七九〇三

西園集

心誠上法後少用句

為時

疾多之涉難自考之安之端

兼取業書後內功者人別後

不名在年一而之司後者故

早之共厨元斗方進中紙疏

先因亦因之取書之胡難一

三事知

以牙急以厨兵斗下版樹西乞
無不通之及身物之或登牙第書
沒田切者之人是法方
行自通之拍拍沙河中六天海業書沒
一版之南時人打牙難之及十第
上東港志東之江法公版之
江金別急之版之江牙人同人版之

多年年沙利之進之門上版之
以牙高時第書沒身動其德
沙因掛之版之江牙之第場切者
之人牙厨者之其其德之助
沙洞門切善之第之江下之版之
功方者之牙貫通之江洞版之第
下力之之版之江第之第之第

沙泉府不於瑞之少然門之竹与
 信使海定之小本所重之入廣之
 進之沙何之少部公之義之如
 以之重之少用之西沙安之
 在角之竹一竹之少烟方之法
 以少指操之少入何建之少所
 時不任以少之少之少之少之

此後為各樹之意也

印

六月九日

杉村大茂


半田為元


市島建太人


年用子内


(Faint green ink bleed-through or ghosting of text from the reverse side of the page)

白江典監

引將監反

依須海藏反

右休去声子上声也通以反女上声乃通道反下上

七月

甲辰

事反

今知此法未敢
據見此法之由事
勢達
所學之法猶未
上上之法未敢
也信事也

以內狀之替之信使亦用件之儀亦
清調熟之末翰之清之相成以成之
下之 作上之 先一 應得胡憲清
之候之清然合此之及押法末翰
清之方彼此之及清之者果以事中之
之候之 作上之 中一 末翰月附
附後右後左旁之狀末之也為百調

今知此法未敢
據見此法之由事
勢達
所學之法猶未
上上之法未敢
也信事也

昨上日朝鮮所用古法沙流先中
阿部伊勢与快内膳子口指者持来
公用人波名之古平画云程又口上言
此言之憲法方快之六ヶ敷中少以流中言
委流中述以上事面在出以奥指入
於此出伊勢与快内膳子之腹中少分
被退去此辰為个中述如新出程の

公博流之

卯

八月十三日

佐須伊織

氏江典膳及
平田宗内及
古川将監及
蕃苗速虫人及

平田為之元茂

杉村大茂茂

吉狀末念者略

右吉狀去十六日右邊山限書及法

通吉山止

九月廿三日

杉村大茂



平田為之元



蕃建車人



平田字内



長江典膳



依須伊織茂

特選蘇州

好茶

古法

古法

古法

只口秋露

林區

特選

蘇州

九月廿二日

蘇州

清

市内家言

外方月令

以海大在沖におおしく少茂之澤抄く
此節にて

市用件案外市子入におおしく
市煩成之至實之市時運法市子入
市因宛之收法事一に相市内書を
右抄云市子入にて
市用調之云以海表

公色也 物上方之至るは行分子事
万若片水法しるは忠徳著く市貫道
至は信猶又筋之市内言方下おる
就吏市者其卷之一辰之至ひる
市國家の永世に及ひるは市内言方
是之粉身は神
尊之惠之市名は信誠を畏い而耐

公急之市松子之考仕の事又三多事
危角法改革之法時最中其端
市出方節之法減端其成其事
お少の海をこと事一不依いるは永世
及比市貴大益節之受其の改然之居
以海大也南所法切勞之又と能と海
張分竹分とる精力を勿論之候事

不意上京滞在連の長府志す候
於同人者之上委汝中し兼以上返
市内意を掛り候と候

一 此節末指相違ひを早速披露
て其者之を勿論は海大不慮一懸
以修之要は方以都合を存し付不日
及市届り候て之斗山

右之辰為一河也名如新也
子埋流之

七月廿三日

作須伊藏

氏江典孫後

平田之內後

古川將監後

蕃建連人後

平田為之元後
杉村大統後
右之辰狀老月廿五日右邊記書
及右邊記書以上

十月三日

杉村大統

平田為之元



蕭建連人



平田字内



及江典昭



作須伊織及

平田字内

平田字内

御深密記

御深密記

糸くさき糸くさき

と板んいけ年のうま

と山河さき

山心さき

筒状と塔上の位使来様之儀

波國より易地且狹形諸緩方

高禰し書翰須便は書紙有

子連の披見は書上り中し如所稱卷

尚意方し少級合依は書有

極の筒くの冊云し法中後有し

本翰は書上り方お見合は書有

尚稱書亦以源別之未始
之尚書亦後述之書海并
狀未通為元調去月正分物能
亦用清同與先中河初作摺與
亦務子日拙者亦亦上云用人而寫
狀未之尚書而也
亦若先之分上寫之

亦同讀之亦上之亦上之亦上之
為在亦方亦之亦之亦之亦之亦
亦同亦冒拙者亦之亦之亦之亦
亦為亦亦同亦亦亦亦亦亦亦亦
亦亦上之亦亦亦亦亦亦亦亦亦
亦亦上之亦亦亦亦亦亦亦亦亦
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

三層山記

一 易地忘類 一 通言 且 山 時 記

信出山場之山先標之通誌事又化

少則記之文化例清者融

成山記之通言及中時記

信常山記之通言及中時記

右之山 信出山場之通言及

尚志通山

右之山 信出山場之通言及

之通言及

印

十月五日

作須作織

及江典信皮

平田信皮

公門將監度
 義建車人度
 年田為元度
 杉村大元度
 法狀事者有融山
 下法狀去古白お達以於書及
 通善山望

青舟

杉村大元 為元
 年田為元 為元
 義建車人 為元
 年田為元 為元
 氏江典 為元

去月將登夜
作地作織皮

山崎の巻

山崎の巻

しむるもわらわははらふは地獄も
ふらふもわらわははらふは地獄も
定むるもわらわははらふは地獄も
危角山の上の岩にけりては地獄も
波中へはらわはらわは地獄も
わらわは地獄もわらわは地獄も
ふらふもわらわははらふは地獄も
しむるもわらわははらふは地獄も

しむるもわらわははらふは地獄も
ふらふもわらわははらふは地獄も
定むるもわらわははらふは地獄も
危角山の上の岩にけりては地獄も
波中へはらわはらわは地獄も
わらわは地獄もわらわは地獄も
ふらふもわらわははらふは地獄も
しむるもわらわははらふは地獄も

行

伍須仔藏屋

女心共

平田

第

平田



后了字

御内用

Handwritten text in light green ink, including characters like 御内用 and other illegible characters.

Handwritten text in light green ink, including characters like 御内用 and other illegible characters.

Handwritten text in light green ink, including characters like 御内用 and other illegible characters.

高田風

一、
二、
三、
四、
五、

心内状と彼と以来
年朔夜木物紀
云々
心
以出
以謝
物子

上二夜沙如念之遊行又云所振
日月之影おる方中遊り候へり
早業一月に候りて遊り方へり
中進の事も今一候かへり物起去
可却今一候自然
御君許へり候候候候候候候候
宜お見候へり候候候候候候候候

時多し候及斗方へ夜お候候候
力多謝意候候候候候候候候

長
戸田

戸田頼母とと

杉村大花とと

平田為元



蕭建亞人



平田五内



氏江典照



古川将監及

佐須伴成及

